

青森県ドクターヘリ運航に係る
実績報告書
(平成29年度)

目 次

はじめに	1
運航実績報告書作成の目的	2
運航実績報告対象期間と報告方法	2
本報告書における用語の定義	2
1 運航状況全体に関する報告	
【報告】 運航状況全体に関する報告	3
(1) 二次保健医療圏延べ要請件数	5
(2) 要請区分別出動件数	6
(3) 二次保健医療圏別出動件数	7
(4) 理由別不出動件数	8
(4) 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況	11
【参考】 平成29年度消防本部別運航実績数	13
【参考】 平成29年度二次保健医療圏別延べ要請件数	13
【参考】 北東北3県ドクターヘリ基地病院からの半径100km圏	14
2 平成29年度の運航実績の報告	
(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)	
【報告】 平成29年度の運航実績の報告	
(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)	15
(1) 市町村別出動件数	17
(2) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送方法	18
(3) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関	20
(4) ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類	24
(5) 覚知から医療機関搬送までの時間	28
3 平成29年度の施設間搬送に係る運航実績の報告	
【報告】 平成29年度の施設間搬送の報告	30
(1) 県病ヘリ	31
(2) 八戸ヘリ	33
4 2機体制の効果の報告	
【報告】 2機体制効果の報告	35
(1) 2機体制の効果 ～1機体制では対応できなかった事案～	36

○ はじめに

本県は2つの半島を含む広い県土を有しているという地理的条件の下で、医師不足の問題を抱えているため、限られた医療資源を有効に活用し、質の高い救急医療を提供することが大きな課題であった。

そこで、青森県医療審議会での合意に基づき、平成20年7月に改定した青森県医療計画にドクターヘリの整備促進を掲げ、救命率の向上を早期に図るため、平成21年3月25日から八戸市立市民病院を暫定的にドクターヘリ運航基地病院として運航を開始した。

その後、本県のドクターヘリ事業の安定的運営を図り、県全体で、より効果的なドクターヘリ運航を行うため、県立中央病院を中心とした八戸市立市民病院との共同・分担運航を行うこととし、平成23年4月1日から、県立中央病院と八戸市立市民病院によるドクターヘリの共同・分担運航を開始した。

この共同・分担運航の開始により、出勤要請件数の増加、特に津軽地域からの要請の大幅な増加が明らかになったことに加え、東日本大震災におけるドクターヘリの活躍もあったことから、県として、県内医療関係者の議論を踏まえた上で、本県の救急医療体制の充実のため、できるだけ速やかな複数機導入を目指して取り組むこととした。

複数機の導入に向け、ドクターヘリ運航調整委員会、救急・災害医療対策協議会のほか、平成23年11月に、青森県医療審議会において、これまでの運航実績に係る検証・評価結果を基にした議論の結果、2機体制での運用が望ましいとの意見を頂いた。これにより平成24年10月1日に、2機体制での運用を開始した。

また、北東北3県広域連携については、平成25年4月から試行的に開始され、平成26年10月から3県知事の協定による本格運航が始まっているところである。



○ 実績報告書作成の目的

ドクターヘリの運航においては、効率的かつ効果的な運航を行うため、継続的に実績をまとめ、運用上の課題を明らかにしていくことが必要である。

このため、運航に係る多方面からの実績を整理し、本報告書を取りまとめたものである。

○ 運航実績報告対象期間と報告方法

運航実績報告対象期間は、平成 21 年 3 月 25 日から平成 30 年 3 月 31 日までの期間とした。なお、詳細な報告については平成 29 年度分を行った。

① 運航状況全体に関する報告

主に運航開始から平成 29 年度までの出動要請件数などの推移について整理。

② 平成 29 年度の運航実績の報告

ドクターヘリの運航実績を市町村別や傷病者の症例、覚知から医療機関搬送までの時間などについて整理。

③ 平成 29 年度の施設間搬送に係る運航実績の報告

搬送元医療機関と依頼先医療機関の状況の他、搬送患者の症例について整理。

④ 2 機体制の効果

1 機体制では対応出来なかった事案数の検証について整理。

○ 本報告書における用語等の定義

《現場出動》

消防本部からのドクターヘリ要請を受けて患者搬送のため、現場に出動したものをいう。

《離陸前キャンセル》

消防本部からの要請を受けドクターヘリ出動の準備をしたものの、救急隊がドクターヘリ要請事案ではないと判断し、離陸前に要請を中止したものをいう。

《不出動》

天候不良、ドクターヘリ運用時間外等により出動しなかったものをいう。

《離陸後キャンセル》

要請に応じて離陸したものの、運航中に天候悪化等の理由により、基地病院に引き返すことをいう。

《救急外来搬送》

現場出動した救急隊が処置可能な最寄りの医療機関に搬送した後、搬送先の医療機関の医師の判断により、より高次の医療機関への搬送をドクターヘリで行った場合のことをいう。

《施設間搬送》

既に入院加療中の傷病者を転院させるため、ドクターヘリで搬送した場合のことをいう。

運航状況全体に関する報告（P. 5～12）

○二次保健医療圏別延べ要請件数（P. 5）

- ・平成29年度の述べ要請件数は1,004件で、前年度より118件減少したものの、平成26年度以降概ね横ばいで推移している。
- ・今後の延べ要請件数については、本県における消防機関を含めたドクターヘリの運用体制が安定期を迎え、増加数自体は鈍化傾向にあることから、1,000件前後で推移するものと考えられる。

○要請区分別出動件数（P. 6）

- ・平成29年度の出動件数は760件で、前年度より減少したものの、平成26年度以降概ね横ばいで推移している。
- ・要請区分別の出動件数をみると、現場出動が最も多く、平成29年度は603件で、全体の80%前後で推移している。救急外来搬送及び施設間搬送の件数は、横ばいで推移している。

○二次保健医療圏別出動件数（P. 7）

- ・二次保健医療圏別の出動件数では、上十三地域が最も多く、次いで八戸地域となっており、平成26年度以降同様の傾向となっている。
- ・前年度との比較では、八戸、上十三地域が減少した一方で、津軽、西北五、下北地域が増加している。なお、津軽、下北地域は平成26年度以降増加を続けている。
- ・上十三地域における平成29年度の出動件数は212件で、前年度の283件から71件減少している。その要因の一つとして、地域の二次医療機関である十和田市立中央病院に救急医が常勤となったことから、外因性の重症傷病者の受入が開始されたことが考えられる。
- ・八戸地域における平成29年度の出動件数は198件で、前年度の268件から70件減少している。その要因の一つとして、ドクターヘリ要請基準を満たす重症事案が少なかったことが考えられる。
- ・津軽地域への出動件数が他の地域より少ないのは、人口が津軽平野に集中し、二次・三次救急医療を提供する医療機関までの搬送距離が短く、ドクターヘリの活用よりも、救急車での医療機関への早期搬送を優先させる傾向があることが考えられる。一方で、ドクターヘリの有効性が救急隊員や消防の通信指令課員に認識されてきたことで、平成26年度以降増加を続けていると考えられる。
- ・下北地域でも平成26年以降出動件数が増加傾向にあるが、その要因の一つとして、消防本部に重症事案でのドクターヘリ要請体制が整ってきたことや、地域の基幹病院であるむつ総合病院に脳外科医が不在であることが考えられる。

○理由別不出動件数（P. 8～10）

- ・平成29年度の不出動件数は180件で、前年度より22件減少しているものの、要請件数に占める割合は19.1%と前年度と同割合となっている。
- ・不出動の理由として、最も多い理由は天候不良であり、平成29年度は108件（60%）となっている。
- ・平成24年10月から2機による運航体制となったが、基地病院の天候が良い場合でも、現場が天候不良の場合にはドクターヘリが離着陸できない（現場近隣に離着陸できる可能性はある）ため、2機体制の効果が発揮できない場合もある。
- ・なお、2機体制での運用により、重複要請による不出動件数は横ばいとなっている。

○北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況（P. 11～12）

- ・平成29年度の青森県の出動件数は29件で、岩手県への出動が26件、秋田県への出動が3件であった。
- ・平成29年度の岩手県の出動件数は11件で、青森県への出動が0件、秋田県への出動が11件と秋田県のみへの出動であった。
- ・秋田県の出動件数は低調であり、平成29年度は0件である。
- ・本県は2機での運用により、他県を要請する必要性が低く、平成25年度に1件、平成26年度1件、平成28年度に1件の計3件であった。

1 運航状況全体に関する報告

(1) 二次保健医療圏別延べ要請件数

二次保健医療圏別の延べ要請件数については、図表1-1-1及び1-1-2のとおりである。
 平成29年度の述べ要請件数は1,004件で、前年度より118件減少したものの、平成26年度以降概ね横ばいで推移している。

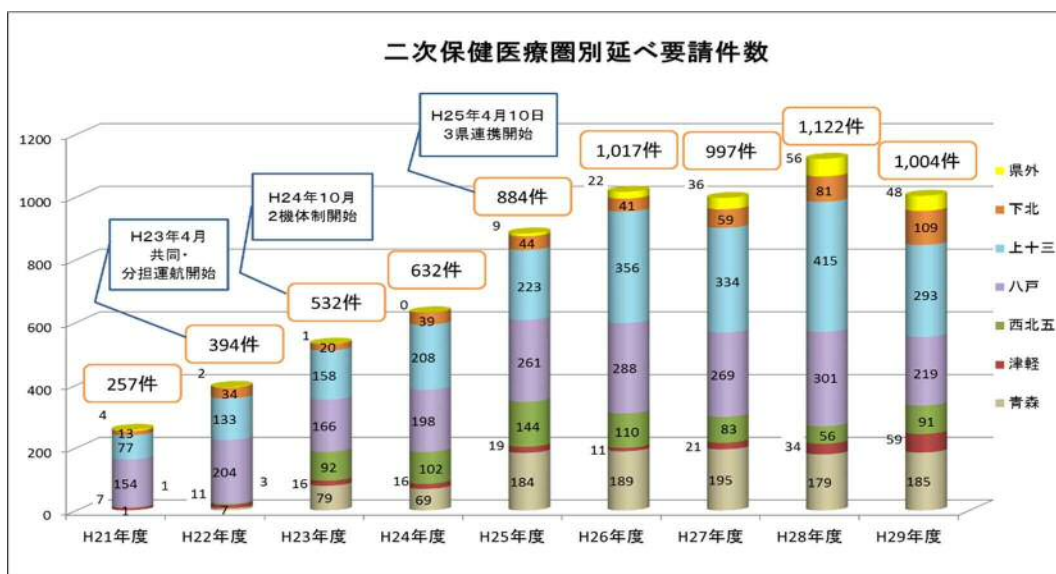
【図表1-1-1】二次保健医療圏別延べ要請件数

(単位：件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	県外	合計
平成20年度	0	0	0	2	2	1	0	5
H21年度	1	7	1	154	77	13	4	257
H22年度	7	11	3	204	133	34	2	394
H23年度	79	16	92	166	158	20	1	532
H24年度	69	16	102	198	208	39	0	632
4～9 県計	29	9	43	71	105	22	0	279
	10～3 青森	38	4	57	3	16	0	146
	10～3 八戸	2	3	2	124	75	0	207
H25年度	184	19	144	261	223	44	9	884
青森	176	16	137	8	51	41	6	435
八戸	8	3	7	253	172	3	3	449
H26年度	189	11	110	288	356	41	22	1,017
青森	184	10	102	18	92	39	10	455
八戸	5	1	8	270	264	2	12	562
H27年度	195	21	83	269	334	59	36	997
青森	190	16	80	12	75	54	8	435
八戸	5	5	3	257	259	5	28	562
H28年度	179	34	56	301	415	81	56	1,122
青森	175	32	53	21	128	77	8	494
八戸	4	2	3	280	287	4	48	628
H29年度	185	59	91	219	293	109	48	1,004
青森	175	54	85	5	81	95	10	505
八戸	10	5	6	214	212	14	38	499

【図表1-1-2】二次保健医療圏別の延べ要請件数

(単位：件)



(2) 要請区分別出動件数

要請区分別出動件数は図表1-2-1及び1-2-2のとおりである。

平成29年度の出動件数は760件で、前年度より減少したものの、平成26年度以降概ね横ばいで推移している。

要請区分別の出動件数をみると、現場出動が最も多く、平成29年度は603件(79.3%)で、全体の80%前後で推移している。救急外来搬送及び施設間搬送の件数は、横ばいで推移している。

【図表1-2-1】要請区分別出動件数

(単位：件)

	要請件数 (出動件数+不出動件数)	出動件数	現場出動		救急外来搬送		施設間搬送		うち、離陸後 キャンセル	
			うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合	うち、離陸後 キャンセル	出動件数に 占める割合		
平成21年度	県全体	257	234	19	161 (68.8%)	13	53 (22.6%)	1	20 (8.5%)	5
平成22年度	県全体	394	352	19	221 (62.8%)	17	89 (25.3%)	2	42 (11.9%)	0
平成23年度	県全体	532	438	57	309 (70.5%)	56	50 (11.4%)	0	79 (18.0%)	1
平成24年度	県全体	623	540	71	408 (75.6%)	68	46 (8.5%)	2	86 (15.9%)	1
	県全体[9月まで]	279	238	30	177 (74.4%)	29	7 (2.9%)	0	54 (22.7%)	1
	県立中央病院 [10月以降]	143	116	15	88 (75.9%)	15	8 (6.9%)	0	20 (17.2%)	0
平成25年度	県全体	846	690	41	521 (75.5%)	40	98 (14.2%)	0	71 (10.3%)	1
	県立中央病院	412	312	18	225 (72.1%)	17	42 (13.5%)	0	45 (14.4%)	1
	八戸市立市民病院	434	378	23	296 (78.3%)	23	56 (14.8%)	0	26 (6.9%)	0
平成26年度	県全体	967	838	60	667 (79.6%)	60	97 (11.6%)	0	74 (8.8%)	0
	県立中央病院	438	367	25	283 (77.1%)	25	43 (11.7%)	0	41 (11.2%)	0
	八戸市立市民病院	529	471	35	384 (81.5%)	35	54 (11.5%)	0	33 (7.0%)	0
平成27年度	県全体	962	828	54	646 (78.0%)	53	105 (12.7%)	1	77 (9.3%)	0
	県立中央病院	421	335	22	261 (77.9%)	22	30 (9.0%)	0	44 (13.1%)	0
	八戸市立市民病院	541	493	32	385 (78.1%)	31	75 (15.2%)	1	33 (6.7%)	0
平成28年度	県全体	1,056	854	84	716 (83.8%)	83	82 (9.6%)	0	56 (6.6%)	1
	県立中央病院	482	362	27	286 (79.0%)	26	42 (11.6%)	0	34 (9.4%)	1
	八戸市立市民病院	574	492	57	430 (87.4%)	57	40 (8.1%)	0	22 (4.5%)	0
平成29年度	県全体	940	760	60	603 (79.3%)	58	85 (11.2%)	1	72 (9.5%)	1
	県立中央病院	476	351	24	268 (76.4%)	24	43 (12.3%)	0	40 (11.4%)	0
	八戸市立市民病院	464	409	36	335 (81.9%)	34	42 (10.3%)	1	32 (7.8%)	1

【図表1-2-2】要請区分別出動件数

(単位：件)



(3) 二次保健医療圏別出動件数

二次保健医療圏別出動件数は図表1-3-1及び1-3-2のとおりである。

二次保健医療圏別延べ要請件数と同様に、津軽地域及び下北地域が平成26年以来上昇傾向を示している。

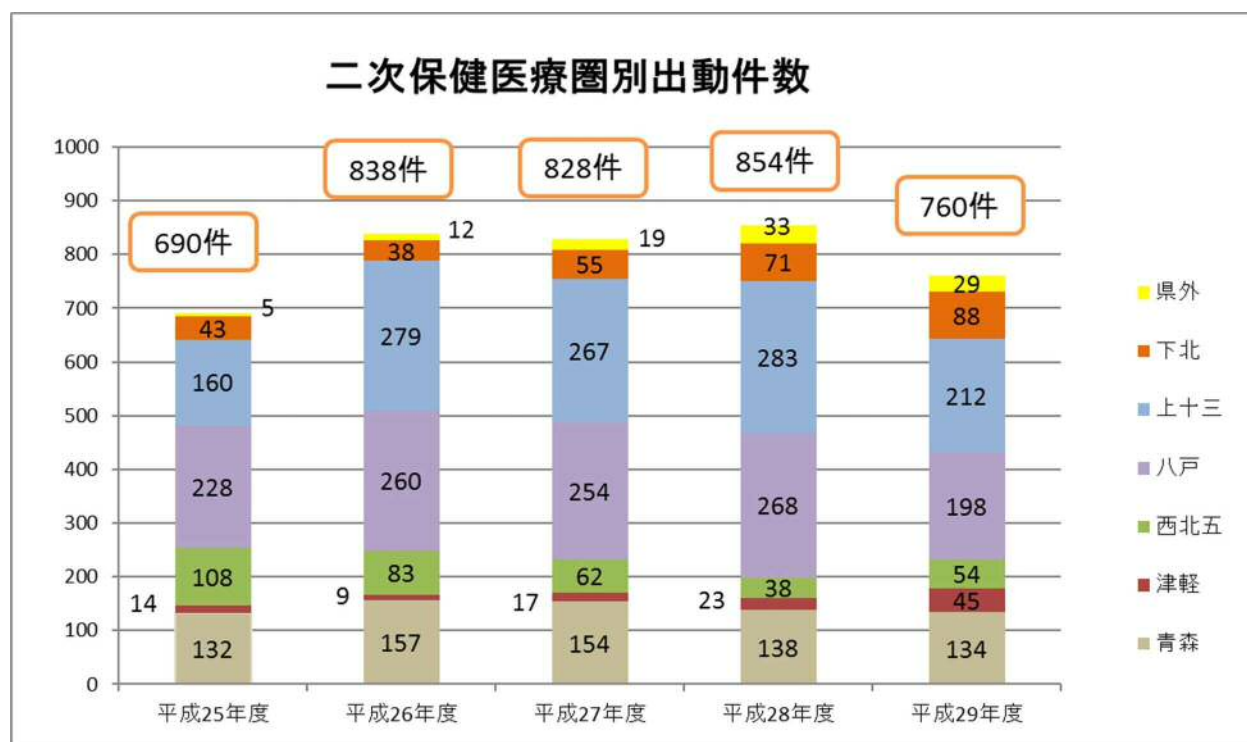
【図表1-3-1】二次保健医療圏別出動件数

(単位：件)

		青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	県外	計
平成25年度	(合計)	132	14	108	228	160	43	5	690
	県立中央病院	124	12	103	3	28	40	2	312
	八戸市立市民病院	8	2	5	225	132	3	3	378
平成26年度	(合計)	157	9	83	260	279	38	12	838
	県立中央病院	152	8	80	17	71	36	3	367
	八戸市立市民病院	5	1	3	243	208	2	9	471
平成27年度	(合計)	154	17	62	254	267	55	19	828
	県立中央病院	149	14	59	9	54	50	0	335
	八戸市立市民病院	5	3	3	245	213	5	19	493
平成28年度	(合計)	138	23	38	268	283	71	33	854
	県立中央病院	134	21	38	17	80	68	4	362
	八戸市立市民病院	4	2	0	251	203	3	29	492
平成29年度	(合計)	134	45	54	198	212	88	29	760
	県立中央病院	125	41	54	4	50	75	2	351
	八戸市立市民病院	9	4	0	194	162	13	27	409

【図表1-3-2】二次保健医療圏別出動件数

(単位：件)



(4) 理由別不出動件数

理由別の不出動件数については図表 1-4-1 から 1-4-4 のとおりである。

平成 29 年度の不出動件数は 180 件で、前年度より 22 件減少しているものの、要請件数に占める割合は 19.1% と前年度と同割合となっている。

不出動の理由として、最も多い理由は天候不良であり、平成 29 年度は 108 件 (60%) となっている。

【図表 1-4-1】理由別不出動件数

(単位：件)

		要請件数 (出動件数 + 不出動件数)	不出動理由						
			不出動	要請件数に 占める割合	離陸前 キャンセル	天候不良	時間外	重複要請	その他
平成21年度	県全体	257	23	(8.9%)	-	13	5	5	0
平成22年度	県全体	394	42	(10.7%)	-	25	9	8	0
平成23年度	県全体	532	94	(17.7%)	-	61	10	23	0
平成24年度	県全体	623	83	(13.3%)	-	65	7	11	0
	県全体【9月まで】	279	41	(14.7%)	-	27	4	10	0
	県立中央病院 【10月以降】	143	27	(18.9%)	-	26	0	1	0
	八戸市立市民病院 【10月以降】	201	15	(7.5%)	-	12	3		0
平成25年度	県全体	846	156	(18.4%)	27	100	13	14	2
	県立中央病院	412	100	(24.3%)	13	68	8	9	2
	八戸市立市民病院	434	56	(12.9%)	14	32	5	5	0
平成26年度	県全体	967	129	(13.3%)	28	73	12	14	2
	県立中央病院	438	71	(16.2%)	10	45	6	9	1
	八戸市立市民病院	529	58	(11.0%)	18	28	6	5	1
平成27年度	県全体	962	134	(13.9%)	32	73	13	14	2
	県立中央病院	421	86	(20.4%)	16	55	6	8	1
	八戸市立市民病院	541	48	(8.9%)	16	18	7	6	1
平成28年度	県全体	1,056	202	(19.1%)	30	144	10	18	0
	県立中央病院	482	120	(24.9%)	13	91	6	10	0
	八戸市立市民病院	574	82	(14.3%)	17	53	4	8	0
平成29年度	県全体	940	180	(19.1%)	37	108	13	22	0
	県立中央病院	476	125	(26.3%)	20	81	7	17	0
	八戸市立市民病院	464	55	(11.9%)	17	27	6	5	0

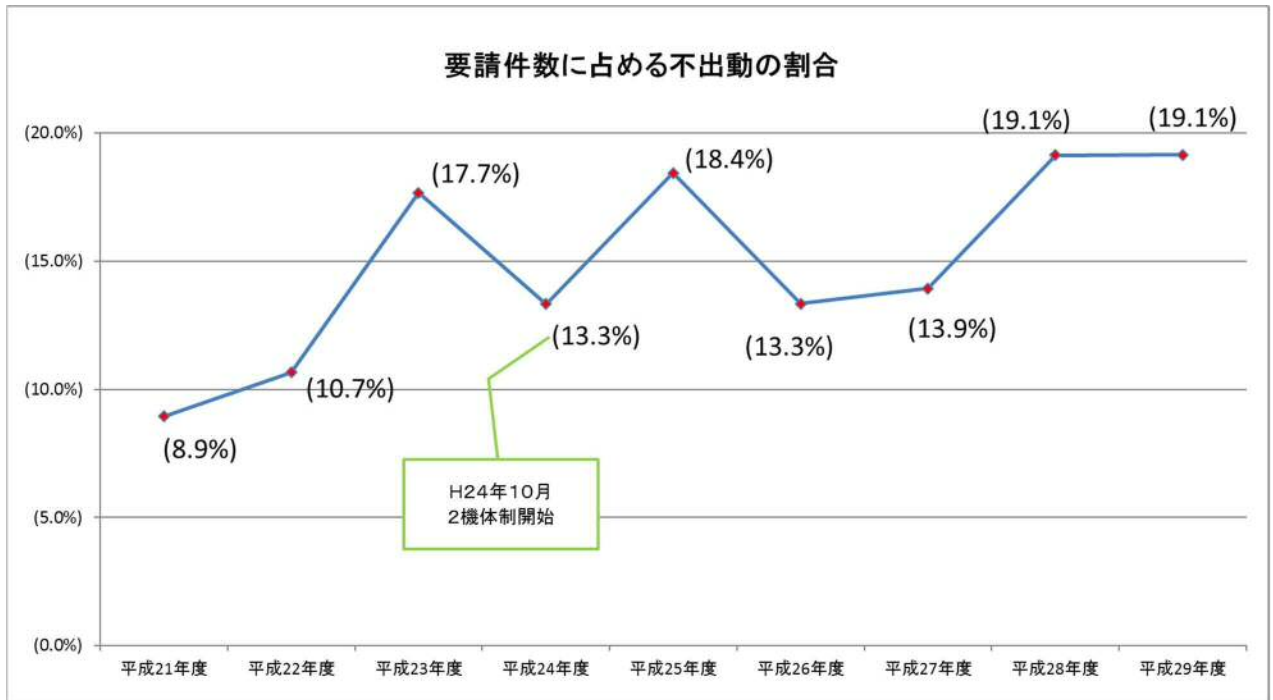
不出動の「重複要請」の内訳

(単位：件)

		他方へ要請したが、 他方も出動中。 (2機とも出動中)	他方へ要請していない。 または、天候不良で出動 できないため 他方を要請したが、 出動中だったなど。	計
平成25年度	県全体	3	11	14
	県立中央病院	3	6	9
	八戸市立市民病院	0	5	5
平成26年度	県全体	4	10	14
	県立中央病院	3	6	9
	八戸市立市民病院	1	4	5
平成27年度	県全体	4	10	14
	県立中央病院	2	6	8
	八戸市立市民病院	2	4	6
平成28年度	県全体	1	17	18
	県立中央病院	1	9	10
	八戸市立市民病院	0	8	8
平成29年度	県全体	2	20	22
	県立中央病院	2	15	17
	八戸市立市民病院		5	5

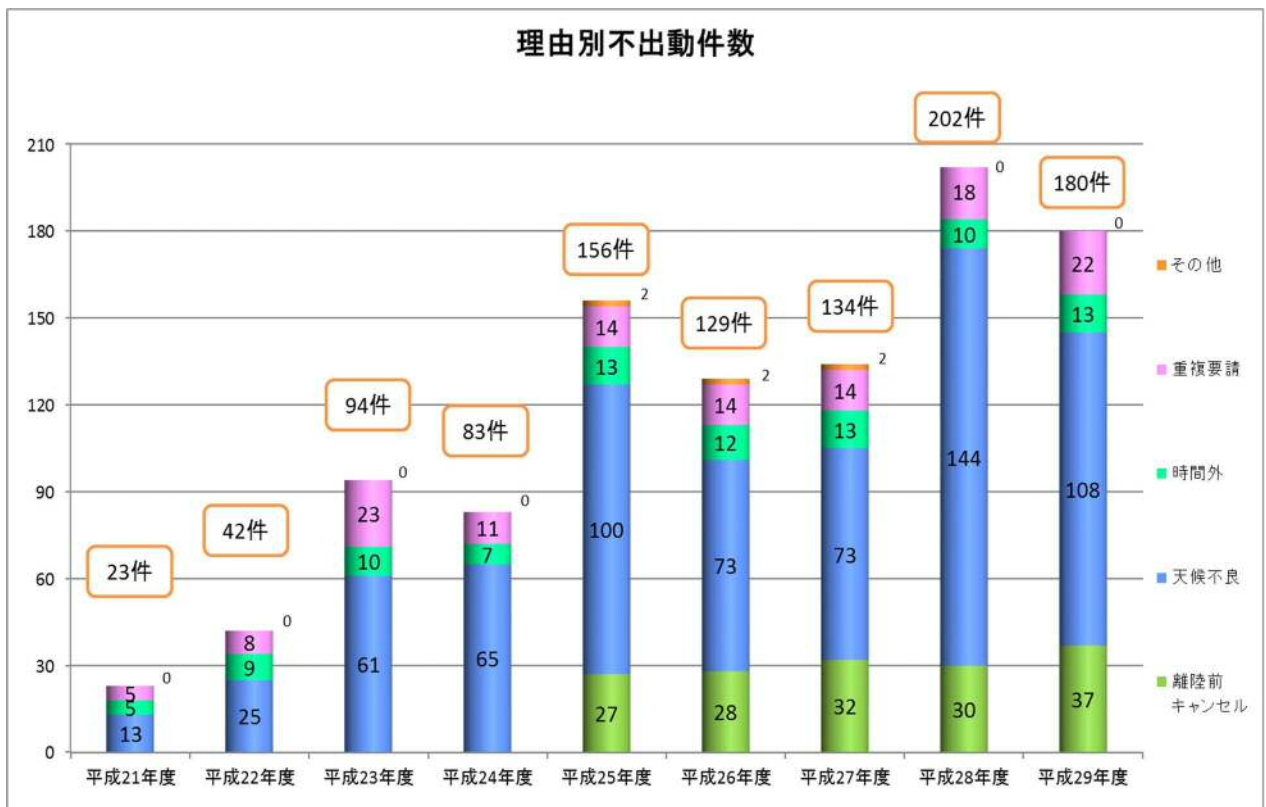
他事案対応中に要請があった場合でも、救急隊で対応可能な事案などは、他方のドクターヘリを要請していない。

【図表 1-4-2】要請件数に占める不出動の割合

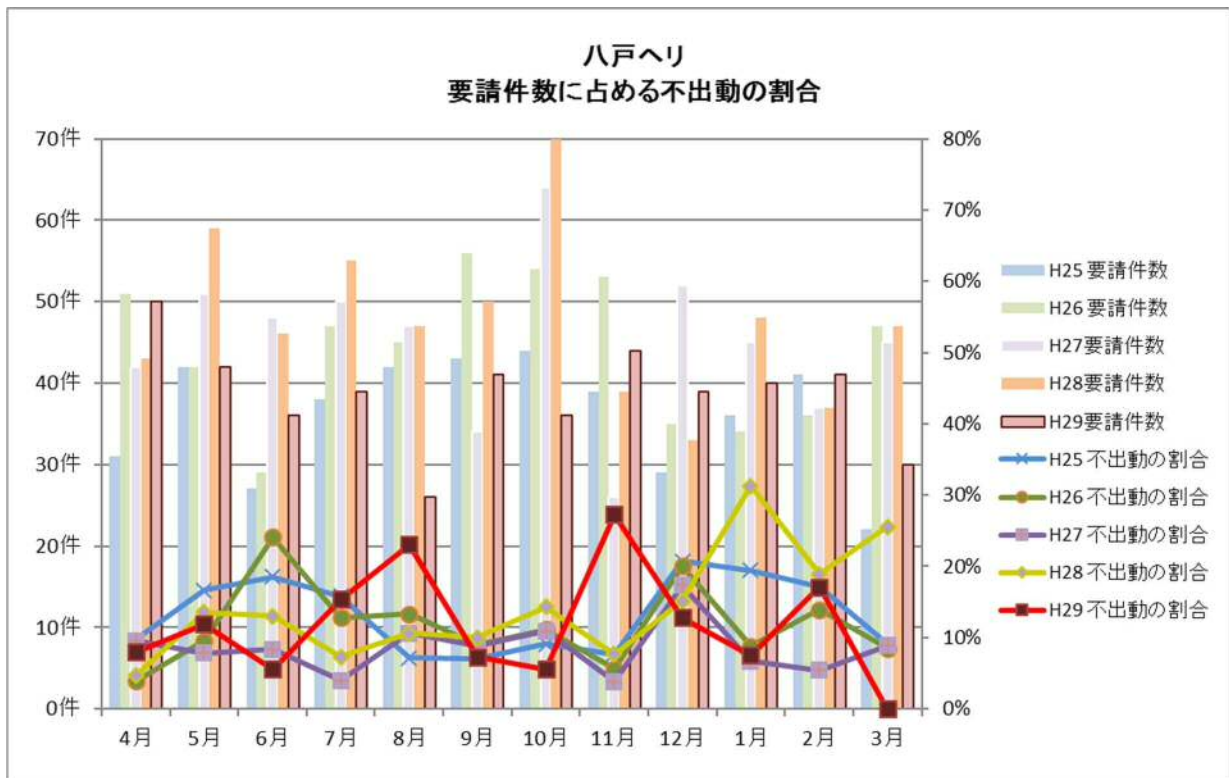
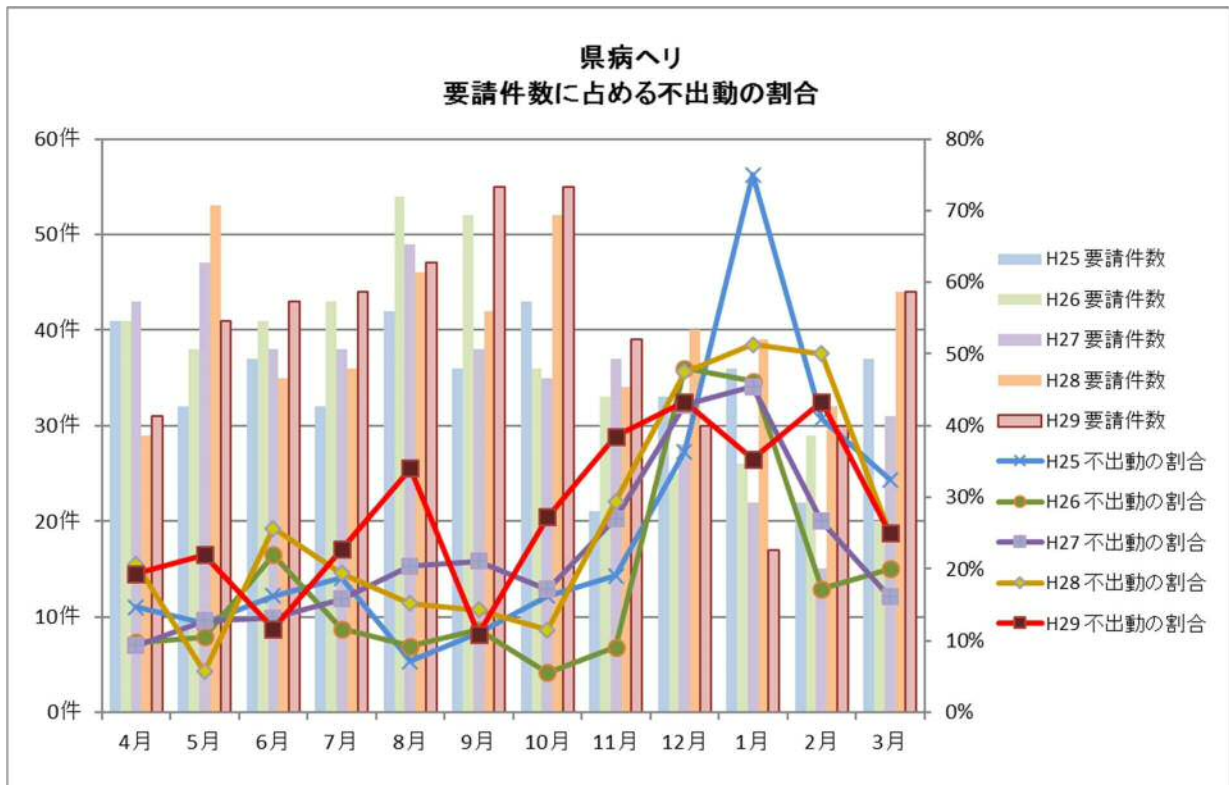


【図表 1-4-3】理由別不出動件数

(単位：件)



【図表 1-4-4】 出勤要請に占める不出動の割合



(5) 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況

北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況は図表1-5-1のとおりである。

平成29年度の青森県の出動件数は29件と最も多く、岩手県への出動が26件、秋田県への出動が3県の合計29件であった。

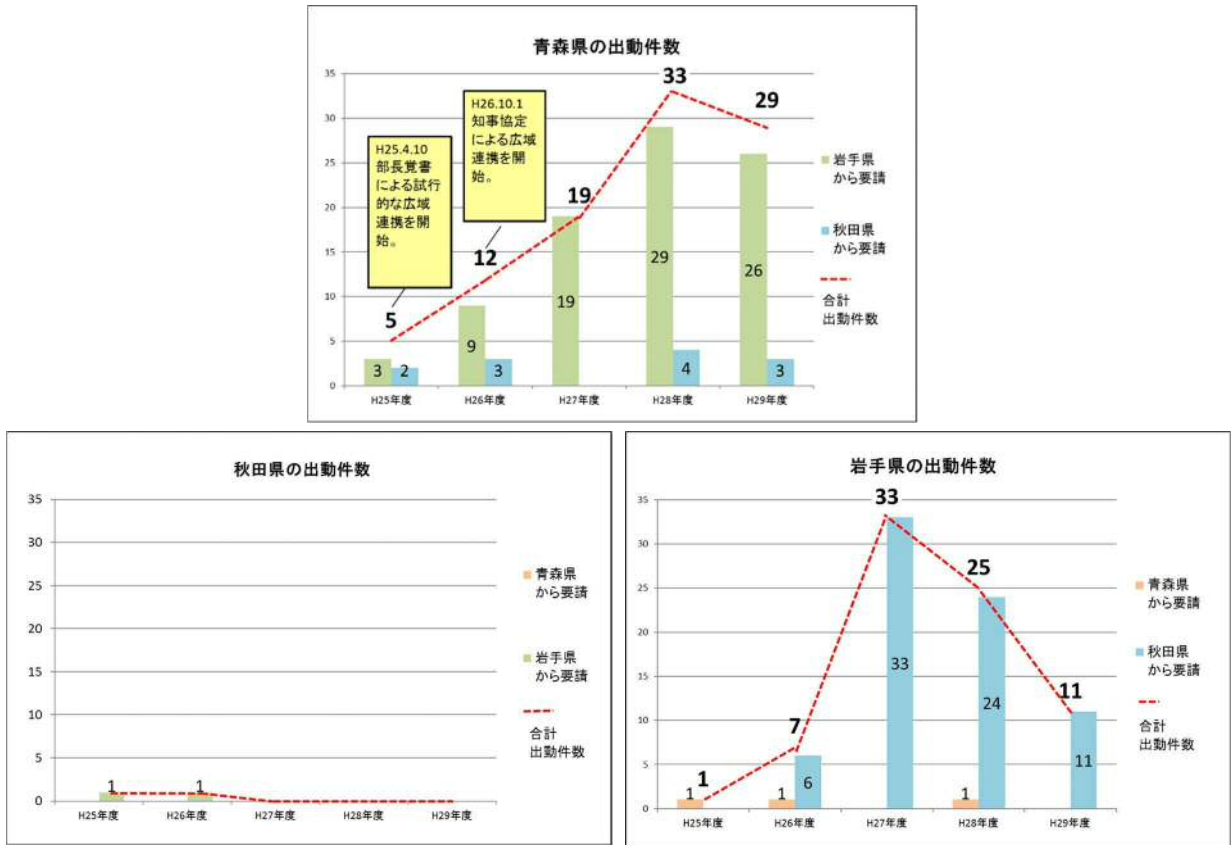
【図表1-5-1】 北東北3県ドクターヘリの広域連携実施状況

(単位：件)

			要請県			合計	(左の内訳)要請要件別出動件数				
			青森県	岩手県	秋田県		他事案 対応中	天候不良	医師の 判断	その他	
H25年度	出動 県	青森県	(計)		3	2	5	3	2		
			県病			2	2	1	1		
			八戸		3		3	2	1		
		岩手県	1			1	1				
		秋田県		1		1	1				
H26年度	出動 県	青森県	(計)		9	3	12	5	4		3
			県病			3	3	1	2		
			八戸		9		9	4	2		3
		岩手県	1		6	7	2	1	3	1	
		秋田県		1		1	1				
H27年度	出動 県	青森県	(計)		19		19	9	5	2	3
			県病								
			八戸		19		19	9	5	2	3
		岩手県			33	33	4	3	26		
		秋田県									
H28年度	出動 県	青森県	(計)		29	4	33	16	11	3	3
			県病			4	4	2		1	1
			八戸		29		29	14	11	2	2
		岩手県	1		24	25	5	1	18		
		秋田県									
H29年度	出動 県	青森県	(計)		26	3	29	12	12	3	2
			県病			2	2	1	1		
			八戸		26	1	27	11	11	3	2
		岩手県			11	11	3		8		
		秋田県									
合計	出動 県	青森県	(計)		86	12	98	45	34	8	11
			県病			11	11	5	4	1	1
			八戸		86	1	87	40	30	7	10
		岩手県	3		74	77	15	5	55	1	
		秋田県		2		2	2				

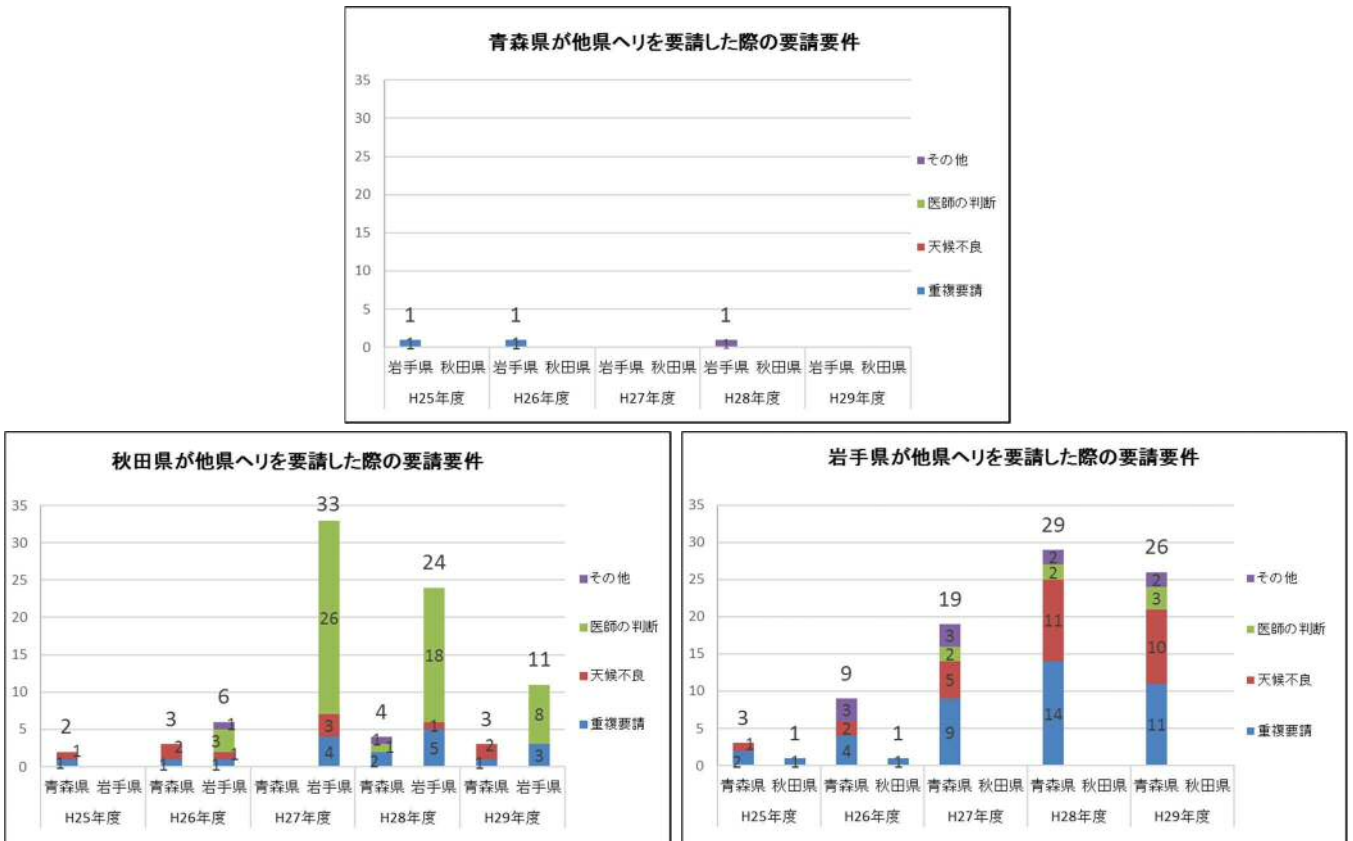
【図表 1-5-2】 北東北3県ドクターヘリの広域連携出動件数

(単位：件)



【図表 1-5-3】 北東北3県ドクターヘリの広域連携出動件数

(単位：件)

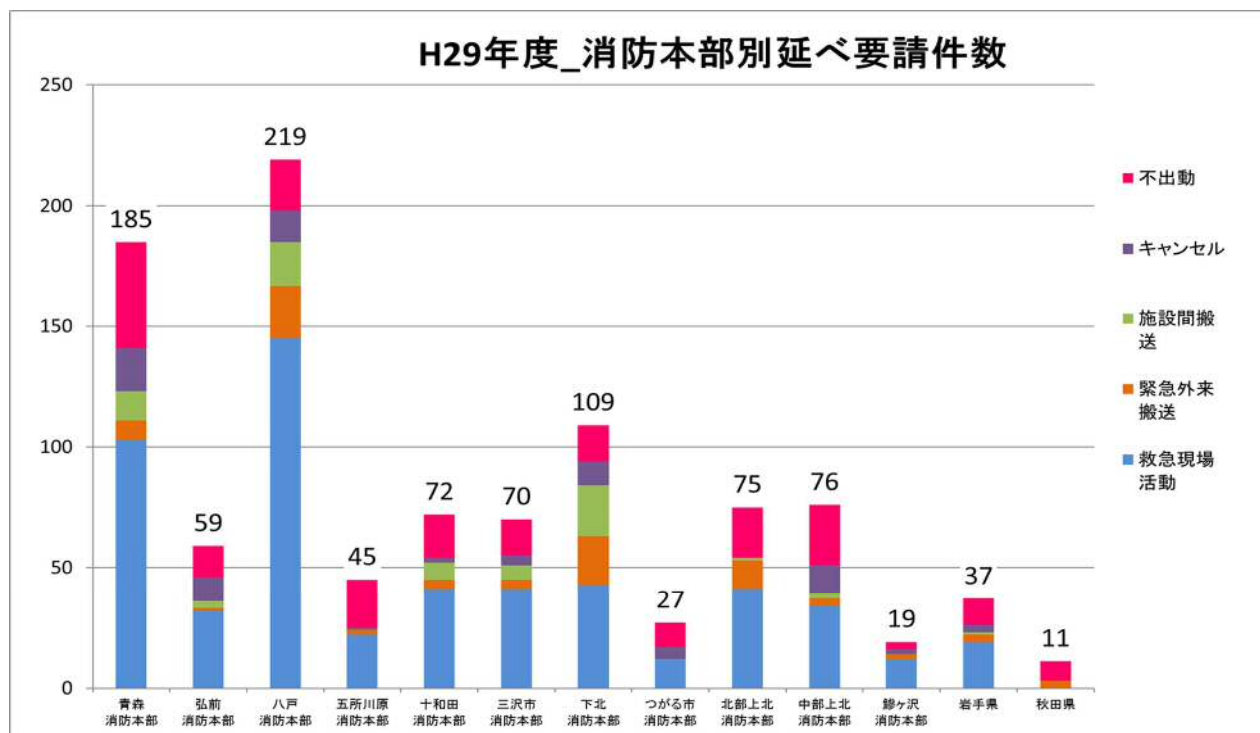


【参考】平成29年度消防本部別延べ要請件数

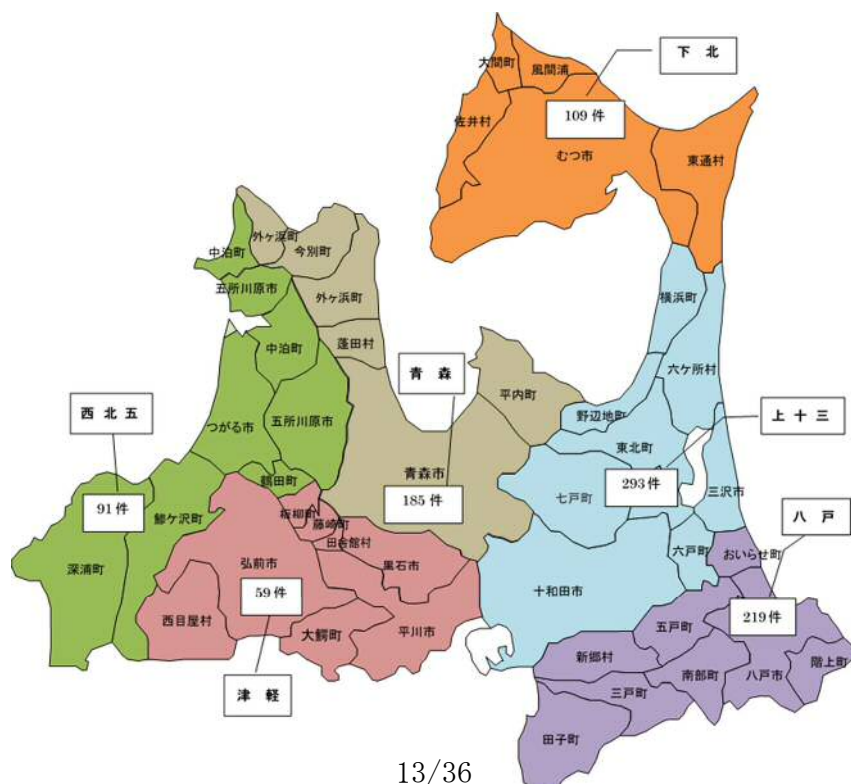
(単位：件)

	青森 消防本部	弘前 消防本部	八戸 消防本部	五所川原 消防本部	十和田 消防本部	三沢市 消防本部	下北 消防本部	つがる市 消防本部	北部上北 消防本部	中部上北 消防本部	豊ヶ沢 消防本部	岩手県	秋田県	合計
救急現場活動	103	32	145	22	41	41	43	12	41	34	12	19	0	545
緊急外来搬送	8	1	22	2	4	4	20	0	12	3	2	3	3	84
施設間搬送	12	3	18	0	7	6	21	0	1	2	0	1	0	71
キャンセル	18	10	13	1	2	4	10	5	0	12	2	3	0	80
不出動	44	13	21	20	18	15	15	10	21	25	3	11	8	224
合計	185	59	219	45	72	70	109	27	75	76	19	37	11	1,004

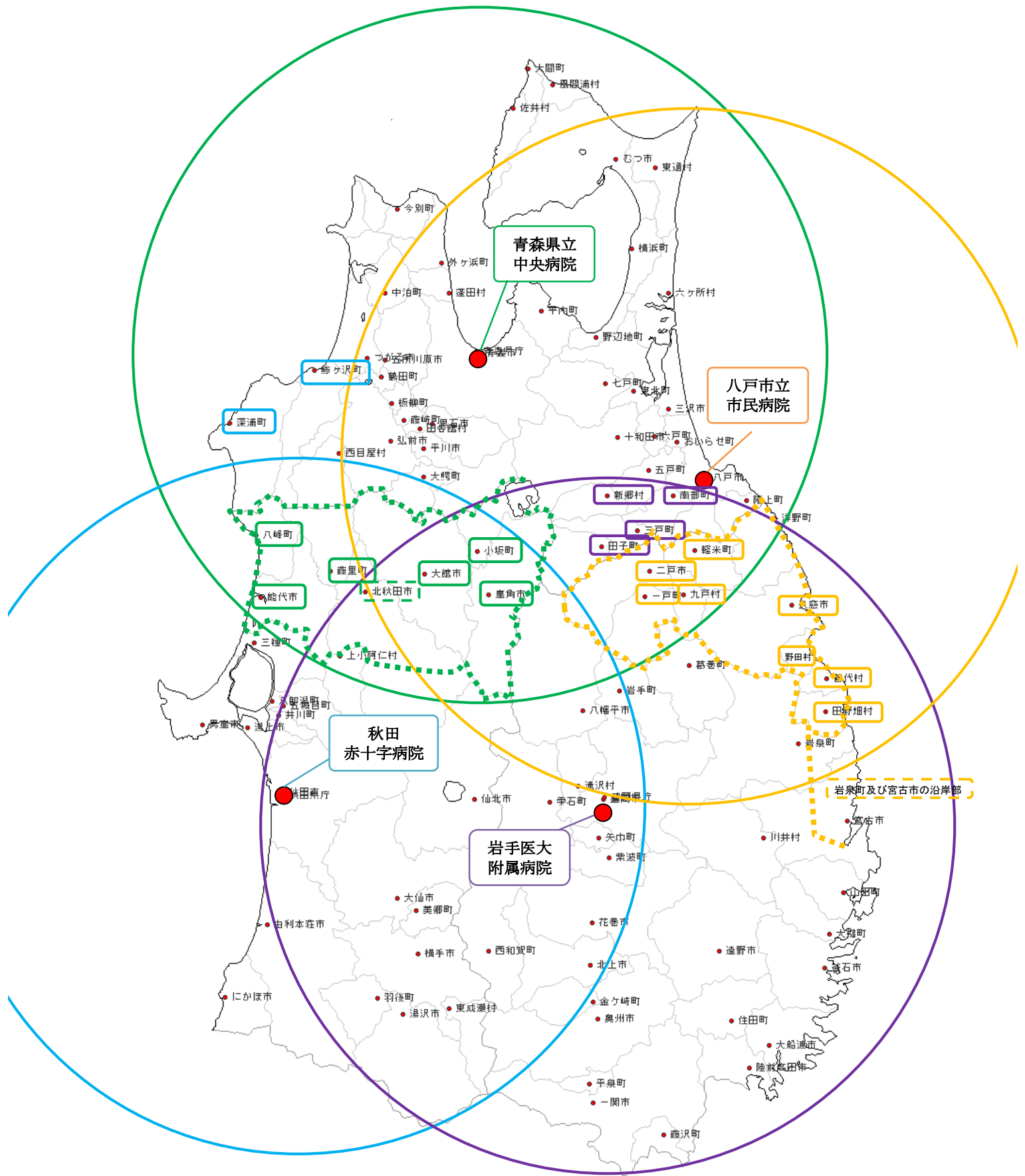
(単位：件)



【参考】平成29年度二次保健医療圏別延べ要請件数



北東北3県ドクターヘリ基地病院からの半径100km圏



平成29年度の運航実績の報告 (施設間搬送及び離陸前後キャンセルは除く)(P. 17~29)

○市町村別出動件数 (P. 17)

- ・ 地域別にみると、人口千人当たりの出動件数は、八戸地域及び上十三地域の割合が高い傾向にある。また、外ヶ浜町、今別町及び蓬田村といった、津軽半島東部の一部で高くなっている。その理由の一つとして、地域の医療事情により二次・三次救急医療を提供する医療機関までの搬送距離が長く、ドクターヘリでの搬送が効果的な事案が多いことが考えられる。

○ドクターヘリの出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法 (P. 18~19)

- ・ 平成29年度の県病ヘリの出動事案に対して、傷病者の搬送をドクターヘリで行った件数は234件で、搬送方法のうちの81.5%となっている。また、県病ヘリが出動したものの、実際の搬送を救急車で行った件数は16件で、前年度より27件減少した。一方、実際の搬送をドクターカー方式(医師が救急車に同乗して医療機関へ搬送する方法)で行った件数は36件で、前年度より26件増加している。その理由の一つとして、基地病院までの距離が近く、ドクターカー方式の方がヘリ搬送より病院到着が速い事案について、陸送にて搬送するよう意思統一が図られたことが考えられる。
- ・ 平成29年度の八戸ヘリの出動事案に対して、傷病者の搬送をドクターヘリで行った件数は342件で、搬送方法のうちの92.7%と県病ヘリに比べて高くなっている。その理由の一つとして、上十三地域を始めとした遠隔地からの出動要請は、救命救急センターである八戸市立市民病院での治療が必要な事案が多いことや、地域の中核的医療機関に搬送する場合であっても、救急車よりもドクターヘリでの搬送が効果的な遠距離の事案が多いことが考えられる。

○ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関 (P. 20~23)

- ・ 県病ヘリ及び八戸ヘリとも、搬送先については基地病院への搬送が最も多い。これは基地病院が救命救急センターであり、受入体制が整っていることや、ドクターヘリとしても次の出動に備えて早急に整備・給油する必要があることから、基地病院へ搬送することが効率の面からも良いためと考えられる。
- ・ 県病ヘリにおいて、弘前大学医学部附属病院への搬送が平成29年度は46件で、前年度から20件増加している。その理由の一つとして、津軽地域において出動件数が増えており、搬送時間が短く早期に治療を開始できる弘前大学医学部附属病院への搬送が増加したことが考えられる。

○ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（P. 24～27）

- ・ ドクターヘリの疾患別件数では、県病ヘリ及び八戸ヘリとも脳卒中をはじめとする中枢神経系疾患が最も多く、次いでその他の内因性疾患、交通事故、心血管疾患の件数が多い。その理由の一つとして、本県はいわゆる生活習慣病を背景とした患者の割合が高いことが考えられる。また、救急隊にドクターヘリを利用した脳疾患の早期搬送が浸透していると考えられる。

○覚知から医療機関搬送までの時間（P. 28～29）

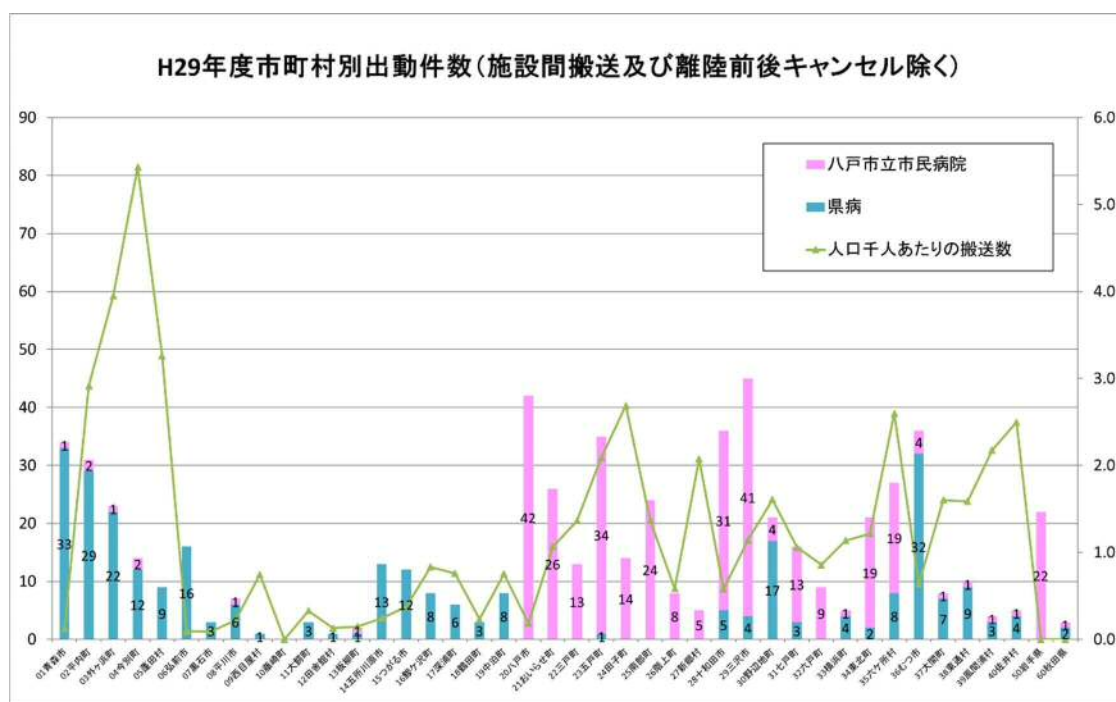
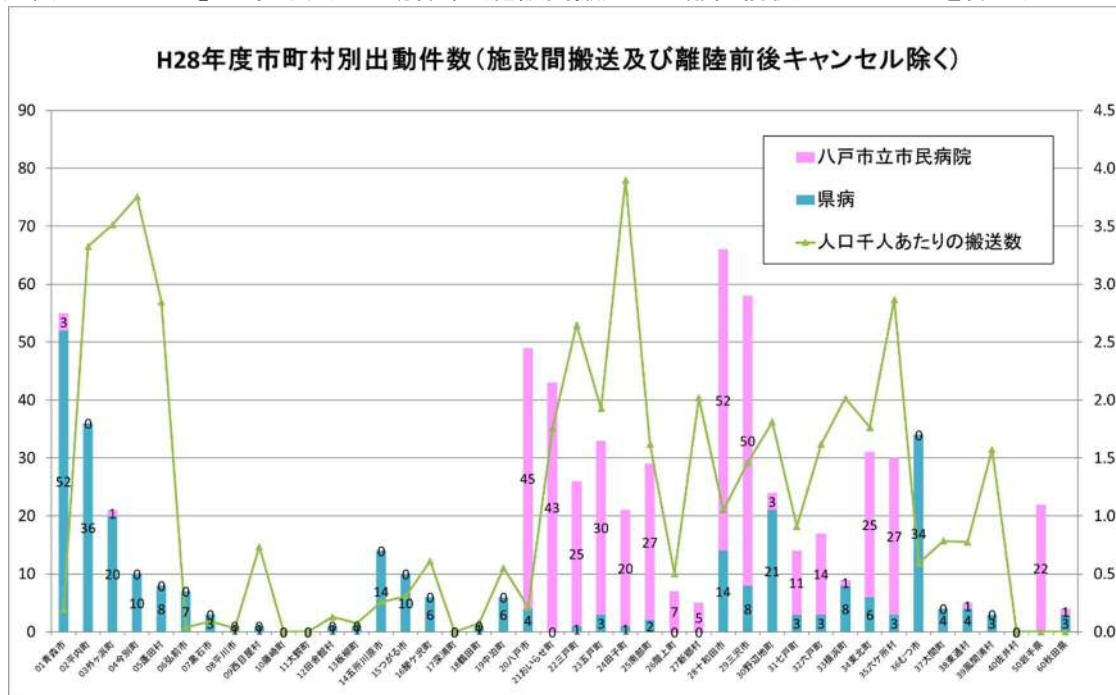
- ・ 覚知から要請までの平均時間は県病ヘリが約10.5分、八戸ヘリが約10.9分である。
- ・ 要請から出動までの平均時間は県病ヘリが約5.5分、八戸ヘリが約6.4分である。
- ・ 出動から現場までの到着時間や現場から医療機関までの平均搬送時間は、事案発生場所から医療機関までの距離のほかに天候、運航経路など外部的な要因に左右されることが多い。
- ・ 出動先となる地域ごとの現場滞在時間の平均時間は、県病ヘリ・八戸ヘリとも15分から20分程度となるところが多い。なお、下北地域の平均滞在時間は年度により変動が大きいですが、これは出動件数が少なく、個別事案の滞在時間による影響が大きいためである。

2 平成29年度の運航実績の報告 (施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

(1) 市町村別出動件数

市町村別の出動件数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は、図表2-1-1のとおりである。

【図表2-1-1】 市町村別出動件数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）



※分析データは、要請内容の詳細を把握している基地病院のデータを用いており、総数及び区分などについては、「1 運航状況全体に関する検証」と一致しない場合がある。

(2) ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法

(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

a 県病ドクターヘリ

県病ドクターヘリ出動の際の、実際に傷病者を搬送した方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）については、図表2-2-1及び2-2-2のとおりである。

平成29年度の救急車での搬送は16件で、前年度より27件減少し、ドクターカー方式（※）での平成29年度の搬送は36件で、前年度より26件増加している。

※ドクターカー方式：医師が救急車に同乗して傷病者を医療機関へ搬送する方法。

なお、救急車は主に救急隊（看護師が同乗する場合も含む）が傷病者を医療機関へ搬送。

【図表2-2-1】県病ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（表）

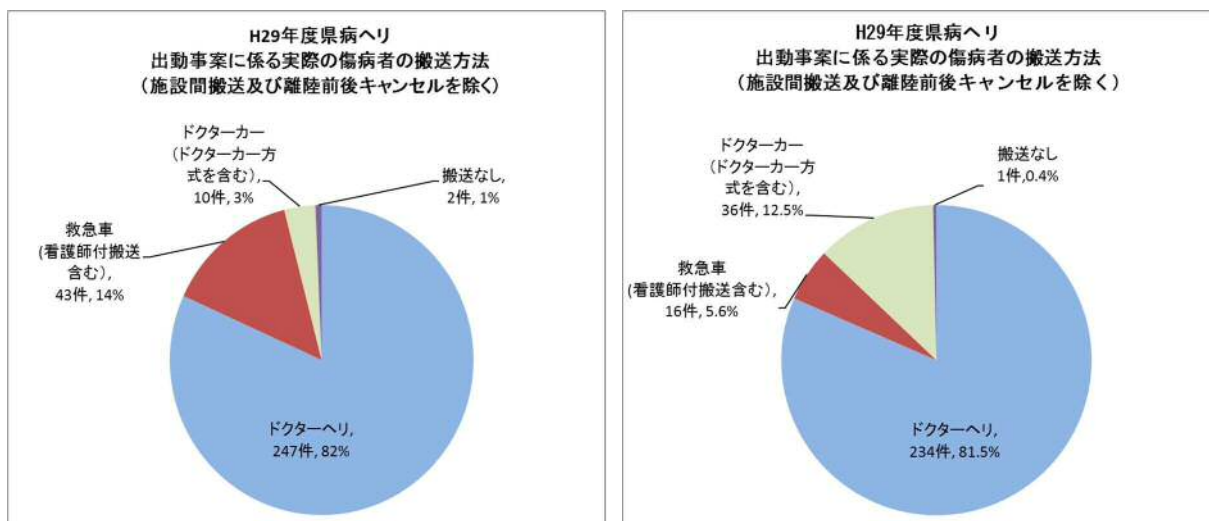
平成28年度県病ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	合計
ドクターヘリ	93	12	34	11	59	35	3	247件
救急車 (看護師付搬送含む)	30	1	3	0	2	7	0	43件
ドクターカー (ドクターカー方式を含む)	3	1	0	0	4	2	0	10件
搬送なし	0	0	0	0	1	1	0	2件
合計	126件	14件	37件	11件	66件	45件	3件	302件

平成29年度県病ヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

平成29年度	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	合計
ドクターヘリ	79	21	44	1	40	47	2	234件
救急車 (看護師付搬送含む)	8	3	1	0	2	2	0	16件
ドクターカー (ドクターカー方式を含む)	18	7	5	0	1	5	0	36件
搬送なし	0	0	0	0	0	1	0	1件
合計	105件	31件	50件	1件	43件	55件	2件	287件

【図表2-2-2】県病ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（グラフ）



b 八戸ドクターヘリ

八戸ドクターヘリ出動の際の、実際に傷病者を搬送した方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）については、図表2-2-3及び2-2-4のとおりである。

平成29年度の八戸ドクターヘリ出動事案のうち、92.7%がドクターヘリでの搬送となっている。

なお、八戸市立市民病院は、ドクターヘリの出動と同時にドクターカーを出動させる場合もあるとのことである。

【図表2-2-3】 八戸ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（表）

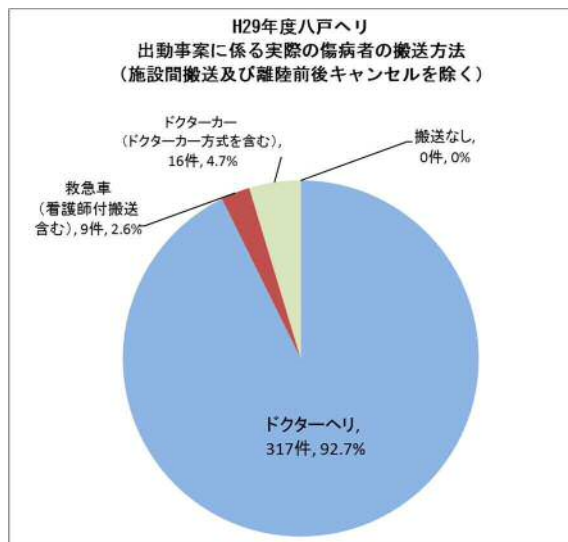
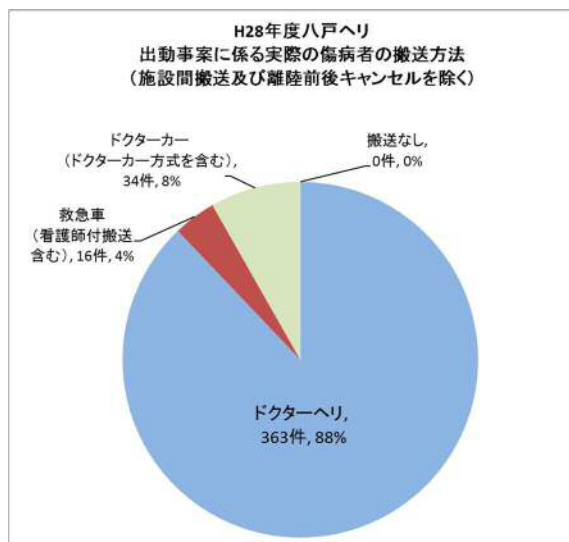
平成28年度八戸ヘリ_出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	合計
ドクターヘリ	4	0	0	179	159	1	20	363件
救急車 （看護師付搬送含む）	0	0	0	6	9	0	1	16件
ドクターカー （ドクターカー方式を含む）	0	0	0	17	16	0	1	34件
搬送なし	0	0	0	0	0	0	0	0件
合計	4件	0件	0件	202件	184件	1件	22件	413件

平成29年度八戸ヘリ_出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
ドクターヘリ	6	2	0	157	125	8	18	1	317件
救急車 （看護師付搬送含む）	0	0	0	3	4	0	2	0	9件
ドクターカー （ドクターカー方式を含む）	0	0	0	6	8	0	2	0	16件
搬送なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
合計	6件	2件	0件	166件	137件	8件	22件	1件	342件

【図表2-2-4】 八戸ドクターヘリ出動事案に係る実際の傷病者の搬送方法（グラフ）



(3) ドクターヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く)

a 県病ヘリ

県病ドクターヘリの出動に係る傷病者の搬送先医療機関は、図表2-3-1から2-3-2のとおりである。

県病ヘリの搬送先医療機関は基地病院である青森県立中央病院が多く、次いで弘前大学医学部附属病院が多くなっている。

【図表2-3-1】 県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(表)

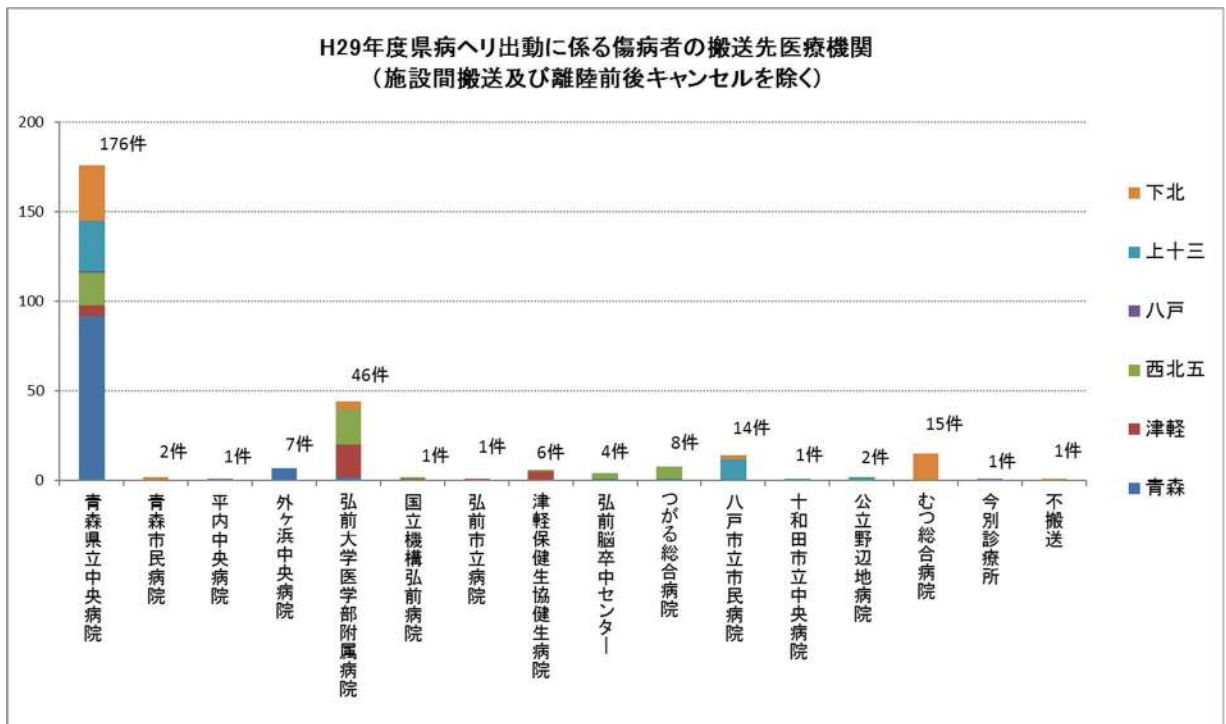
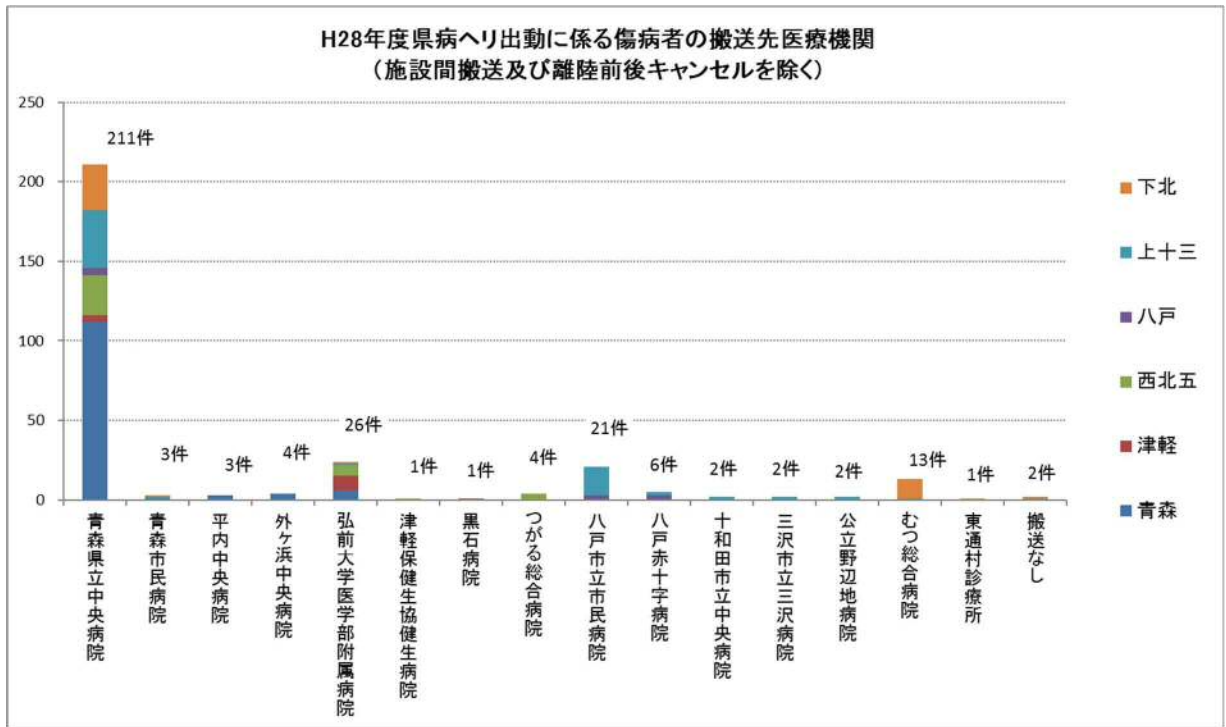
平成28年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田県	合計
青森県立中央病院	112	4	25	5	36	29		211件
青森市民病院	1				1	1		3件
平内中央病院	3							3件
外ヶ浜中央病院	4							4件
弘前大学医学部附属病院	6	9	7		1	1	2	26件
津軽保健生協健生病院			1					1件
黒石病院		1						1件
つがる総合病院			4					4件
八戸市立市民病院				3	18			21件
八戸赤十字病院				3	2		1	6件
十和田市立中央病院					2			2件
三沢市立三沢病院					2			2件
公立野辺地病院					2			2件
むつ総合病院					1	12		13件
東通村診療所						1		1件
搬送なし					1	1		2件
合計	126件	14件	37件	11件	66件	45件	3件	302件

平成29年度県病ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関(施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く) (単位:件)

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田県	合計
青森県立中央病院	92	6	18	1	28	31		176件
青森市民病院						2		2件
平内中央病院	1							1件
外ヶ浜中央病院	7							7件
弘前大学医学部附属病院	2	18	20			4	2	46件
国立機構弘前病院		1	1					1件
弘前市立病院		1						1件
津軽保健生協健生病院		5	1					6件
弘前脳卒中センター	1		3					4件
つがる総合病院	1		7					8件
八戸市立市民病院					12	2		14件
十和田市立中央病院					1			1件
公立野辺地病院					2			2件
むつ総合病院						15		15件
今別診療所	1							1件
不搬送						1		1件
合計	105件	31件	50件	1件	43件	55件	2件	287件

【図表 2-3-2】 県病へり出動に係る傷病者の搬送先医療機関（グラフ）



b 八戸ヘリ

八戸ドクターヘリの出動に係る傷病者の搬送先医療機関は、図表2-3-3から2-3-4と
おりである。

八戸ヘリの搬送先医療機関は、基地病院である八戸市立市民病院が多く、次いで青森県立中
央病院、八戸赤十字病院で多くなっている。

【図表2-3-3】 八戸ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関（表）

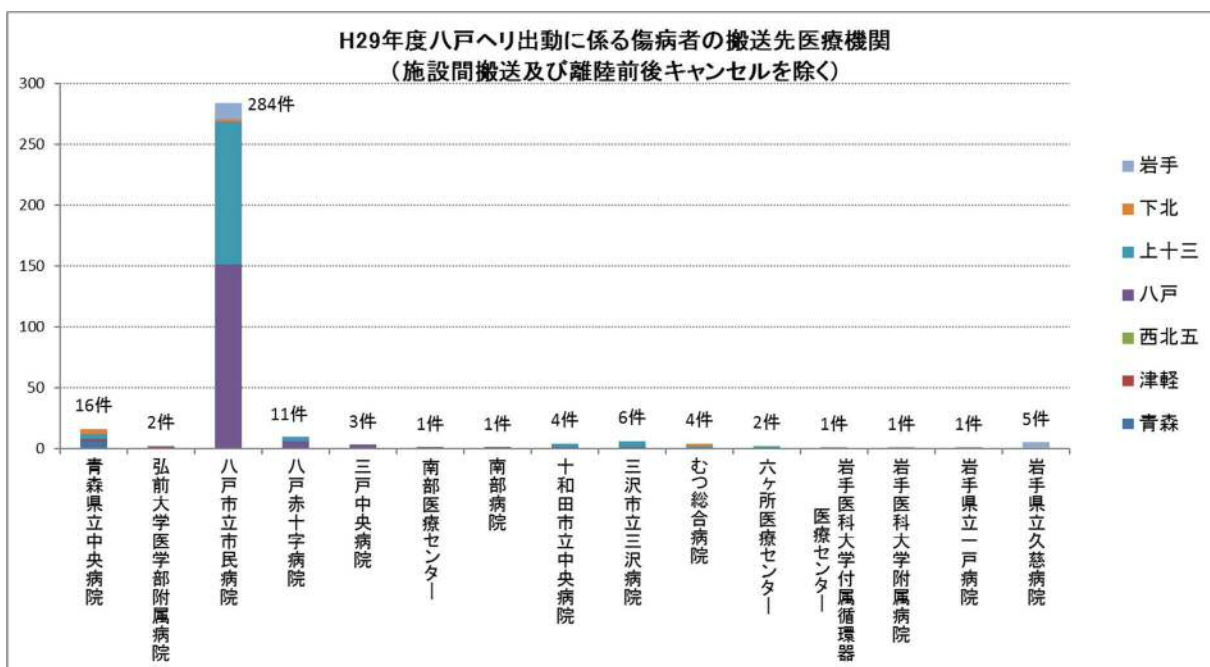
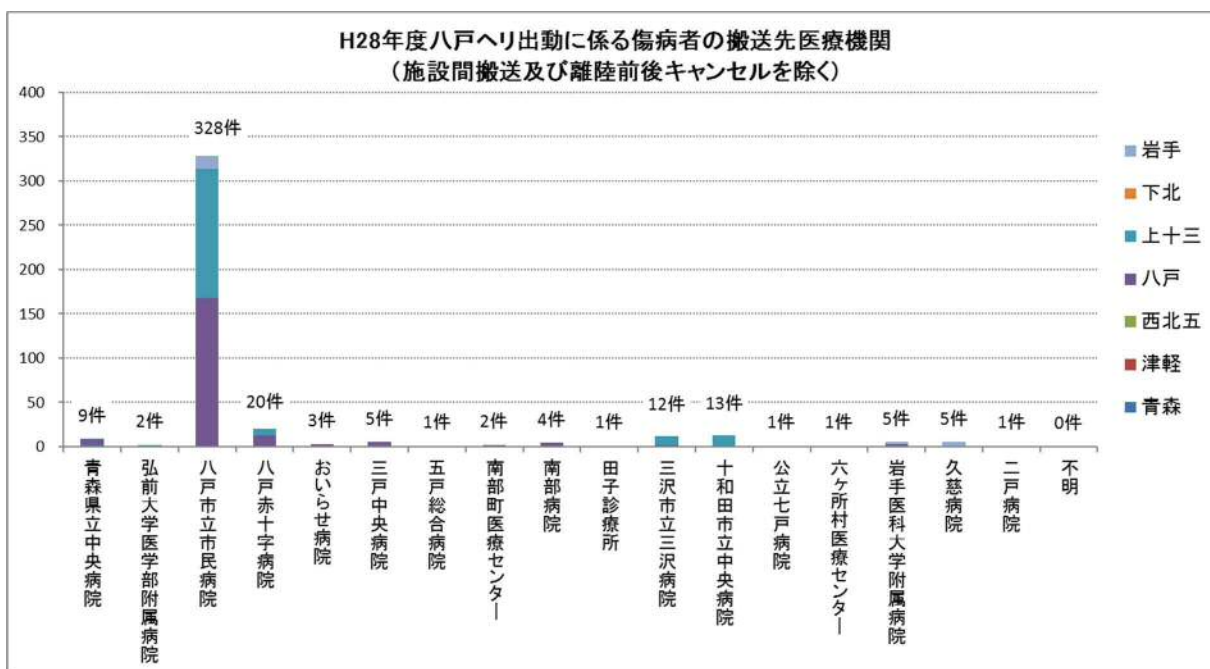
平成28年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
青森県立中央病院	3			5	1				9件
弘前大学医学部附属病院				1	1				2件
八戸市立市民病院	1			167	146		14		328件
八戸赤十字病院				13	7				20件
おいらせ病院				3					3件
三戸中央病院				5					5件
五戸総合病院					1				1件
南部町医療センター				2					2件
南部病院				4					4件
田子診療所				1					1件
三沢市立三沢病院				2	10				12件
十和田市立中央病院					13				13件
公立七戸病院					1				1件
六ヶ所村医療センター					1				1件
岩手医科大学附属病院				3			2		5件
久慈病院							5		5件
二戸病院							1		1件
不明									
合計	4件			206件	181件		22件		413件

平成29年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の搬送先医療機関（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	合計
青森県立中央病院	6	1		1	4	4			16件
弘前大学医学部附属病院		1		1					2件
八戸市立市民病院				151	118	2	13		284件
八戸赤十字病院				6	3		1	1	11件
三戸中央病院				3					3件
南部医療センター				1					1件
南部病院				1					1件
十和田市立中央病院				1	3				4件
三沢市立三沢病院				1	5				6件
むつ総合病院					2	2			4件
六ヶ所医療センター					2				2件
岩手医科大学付属循環器医療センター							1		1件
岩手医科大学附属病院							1		1件
岩手県立一戸病院							1		1件
岩手県立久慈病院							5		5件
合計	6件	2件		166件	137件	8件	22件	1件	342件

【図表 2-3-4】 八戸へり出動に係る傷病者の搬送先医療機関（グラフ）



(4) ドクターヘリ出動に係る傷病者の疾患分類

a 県病ヘリ

県病ヘリが出動した際の傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は図表2-4-1から2-4-2のとおりである。

中枢神経系疾患の件数が最多である。平成29年度はその他の内因性疾患が増加し、全体で2番目に多い件数であるが、疾患分類の全体的な傾向に大きな変化はない。

【図表2-4-1】県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（表）

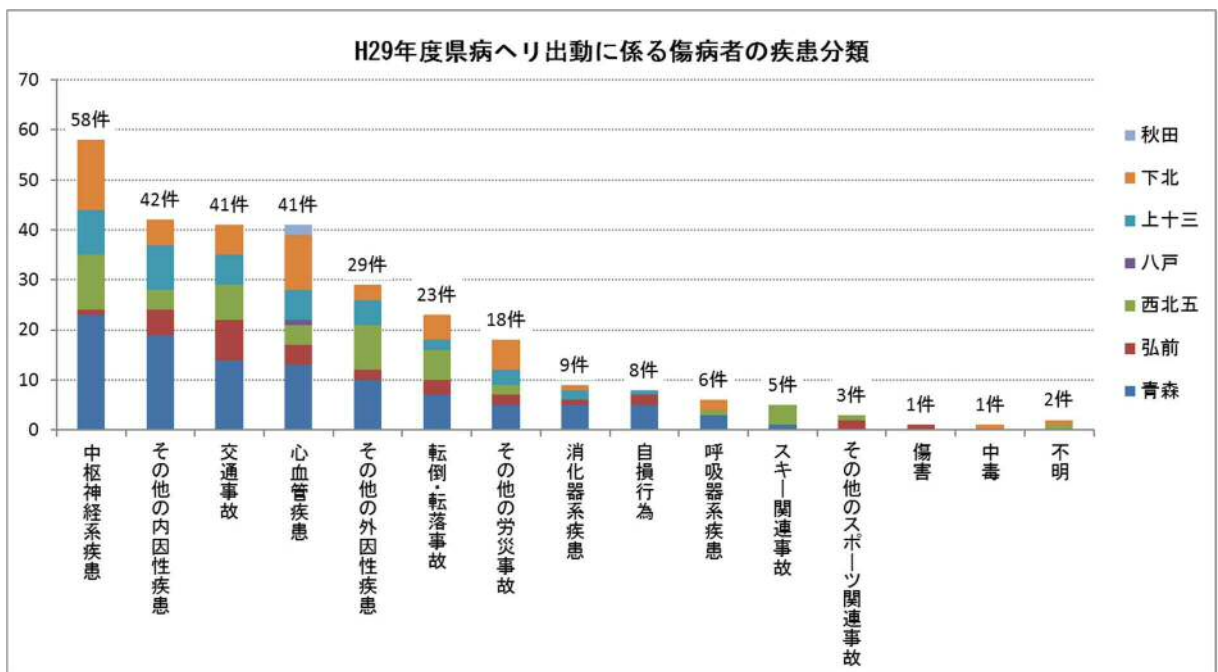
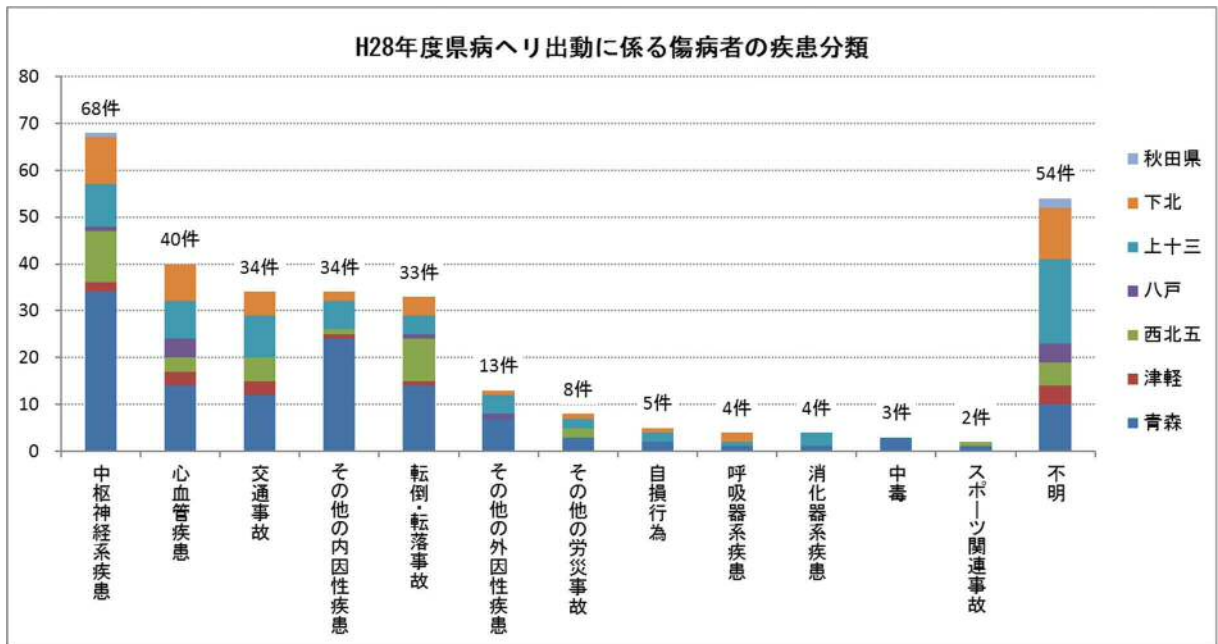
平成28年度県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	秋田県	合計
中枢神経系疾患	34	2	11	1	9	10	1	68件
心血管疾患	14	3	3	4	8	8		40件
交通事故	12	3	5		9	5		34件
その他の内因性疾患	24	1	1		6	2		34件
転倒・転落事故	14	1	9	1	4	4		33件
その他の外因性疾患	7			1	4	1		13件
その他の労災事故	3		2		2	1		8件
自損行為	2				2	1		5件
呼吸器系疾患	1				1	2		4件
消化器系疾患	1				3			4件
中毒	3							3件
スポーツ関連事故	1		1					2件
不明	10	4	5	4	18	11	2	54件
合計	126件	14件	37件	11件	66件	45件	3件	302件

平成29年度県病ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	弘前	西北五	八戸	上十三	下北	秋田	総計
中枢神経系疾患	23	1	11		9	14		58件
その他の内因性疾患	19	5	4		9	5		42件
交通事故	14	8	7		6	6		41件
心血管疾患	13	4	4	1	6	11	2	41件
その他の外因性疾患	10	2	9		5	3		29件
転倒・転落事故	7	3	6		2	5		23件
その他の労災事故	5	2	2		3	6		18件
消化器系疾患	5	1			2	1		9件
自損行為	5	2			1			8件
呼吸器系疾患	3		1			2		6件
スキー関連事故	1		4					5件
その他のスポーツ関連事故		2	1					3件
傷害		1						1件
中毒							1	1件
不明			1				1	2件
総計	105件	31件	50件	1件	43件	55件	2件	287件

【図表 2-4-2】 県病へり出動に係る傷病者の疾患分類（グラフ）



b 八戸ヘリ

八戸ヘリが搬送した傷病者の症例別事案数（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）は図表2-4-3から2-4-4のとおりである。

中枢神経系疾患の件数が最多である。平成29年度では、全体の搬送件数が減少したことに伴い、各疾患件数も減少している。

【図表2-4-3】八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（表）

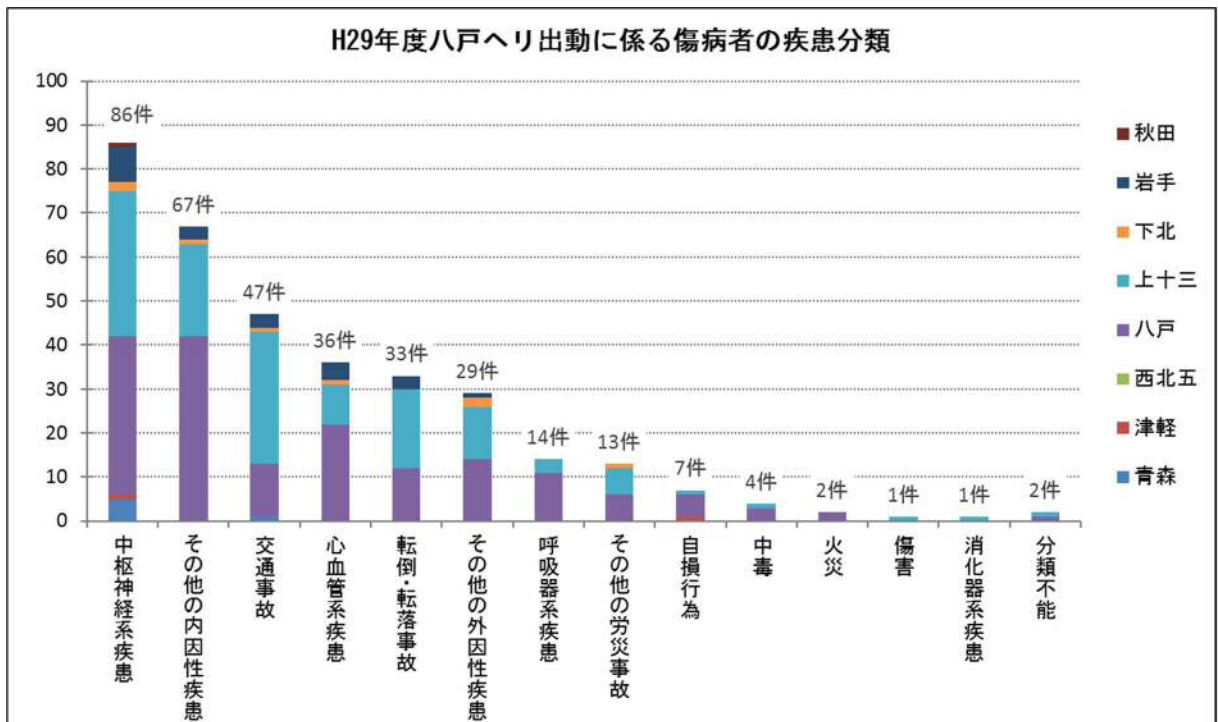
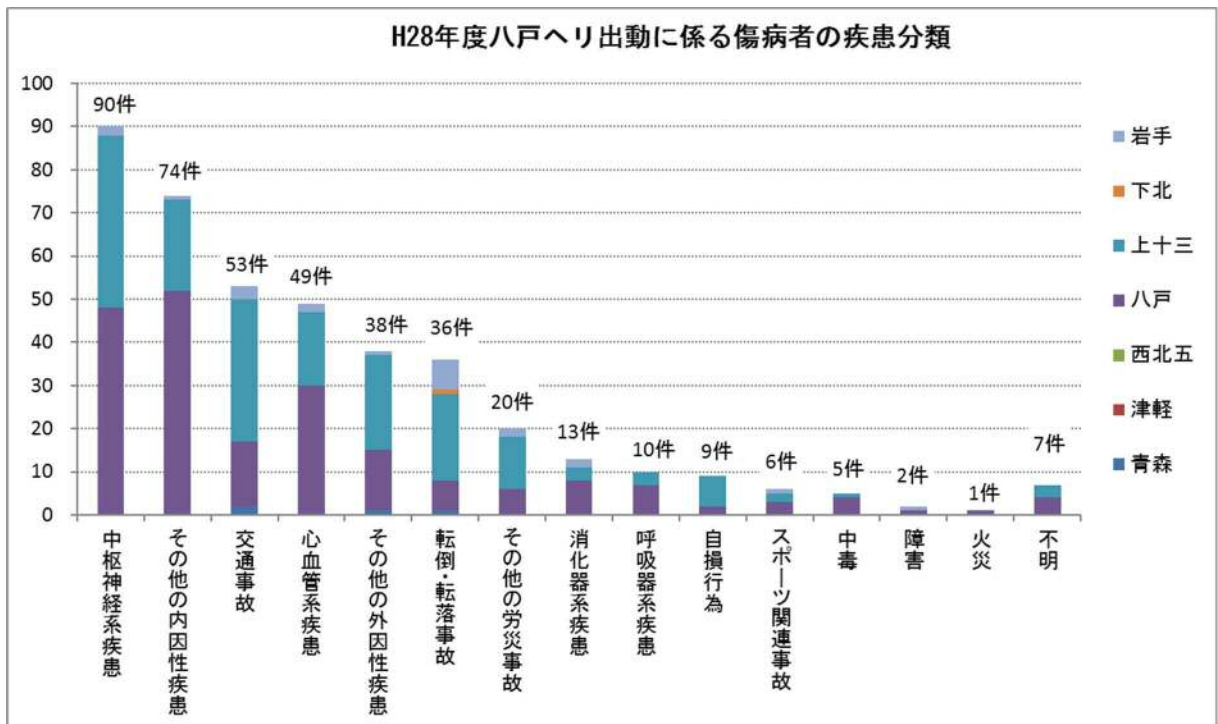
平成28年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	合計
中枢神経系疾患				48	40		2	90件
その他の内因性疾患				52	21		1	74件
交通事故	2			15	33		3	53件
心血管系疾患				30	17		2	49件
その他の外因性疾患	1			14	22		1	38件
転倒・転落事故	1			7	20	1	7	36件
その他の労災事故				6	12		2	20件
消化器系疾患				8	3		2	13件
呼吸器系疾患				7	3			10件
自損行為				2	7			9件
スポーツ関連事故				3	2		1	6件
中毒				4	1			5件
障害				1			1	2件
火災				1				1件
不明				4	3			7件
合計	4件			202件	184件	1件	22件	413件

平成29年度八戸ヘリ出動に係る傷病者の疾患分類（施設間搬送及び離陸前後キャンセルを除く）（単位：件）

	青森	津軽	西北五	八戸	上十三	下北	岩手	秋田	総計
中枢神経系疾患	5	1		36	33	2	8	1	86件
その他の内因性疾患				42	21	1	3		67件
交通事故	1			12	30	1	3		47件
心血管系疾患				22	9	1	4		36件
転倒・転落事故				12	18		3		33件
その他の外因性疾患				14	12	2	1		29件
呼吸器系疾患				11	3				14件
その他の労災事故				6	6	1			13件
自損行為		1		5	1				7件
中毒				3	1				4件
火災				2					2件
傷害					1				1件
消化器系疾患					1				1件
分類不能				1	1				2件
総計	6件	2件		166件	137件	8件	22件	1件	342件

【図表 2-4-4】 八戸へり出動に係る傷病者の疾患分類（グラフ）

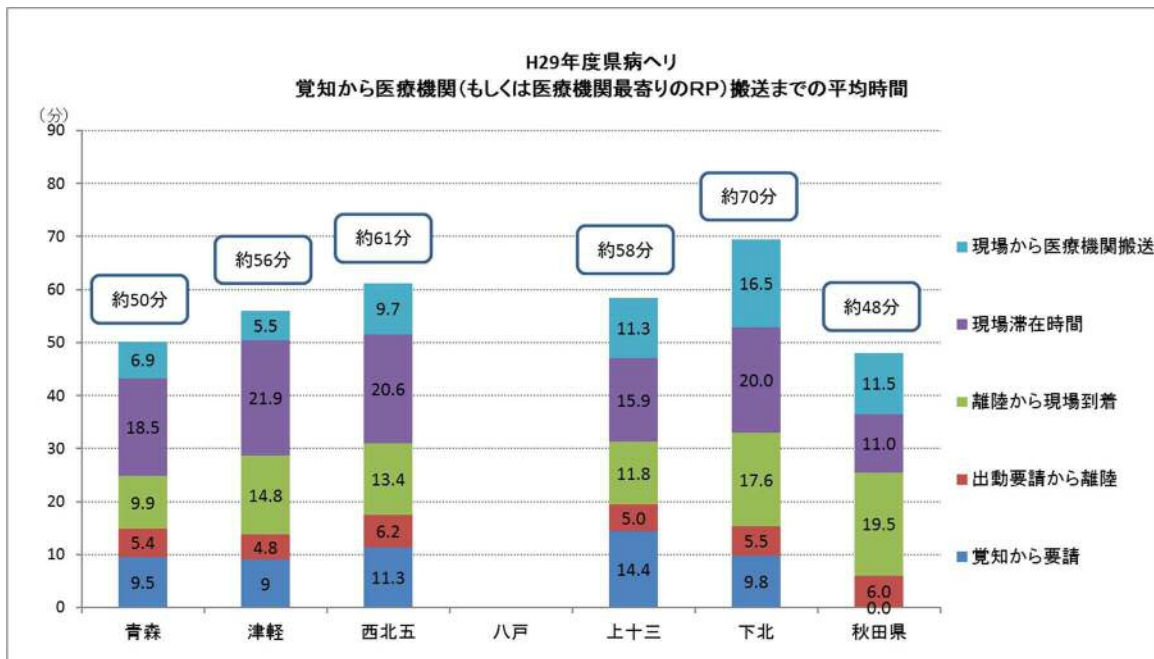
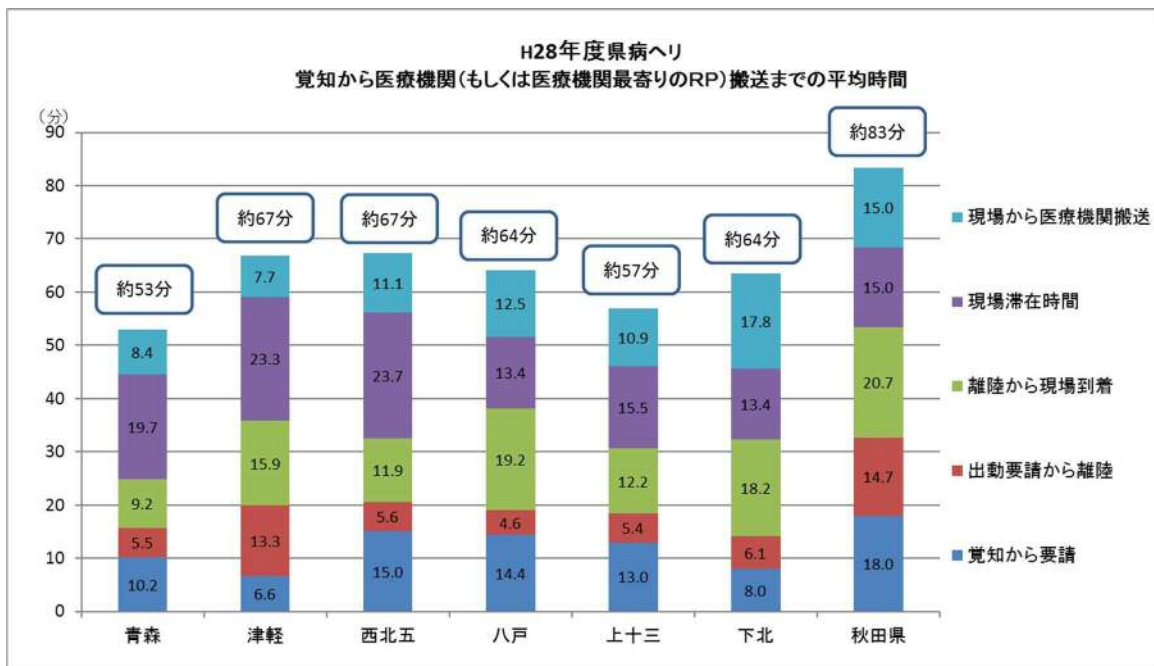


(5) 覚知から医療機関搬送までの時間

a 県病への覚知から医療機関搬送までの平均時間

消防機関の覚知から医療機関搬送までの時間については、図表2-5-1のとおりである。

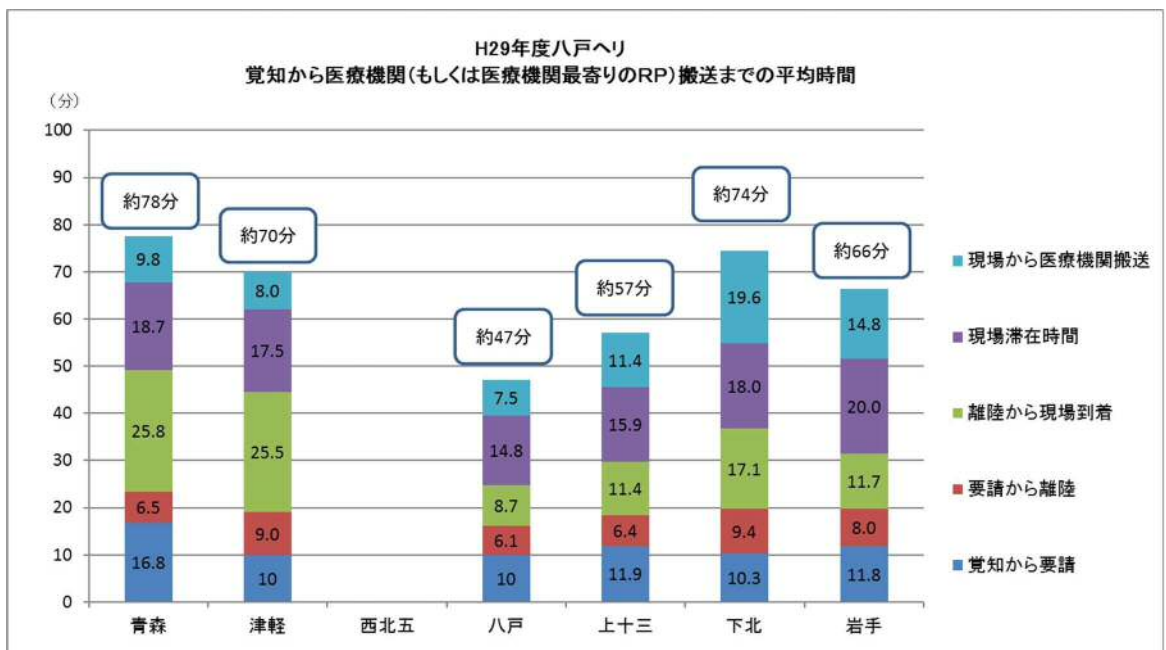
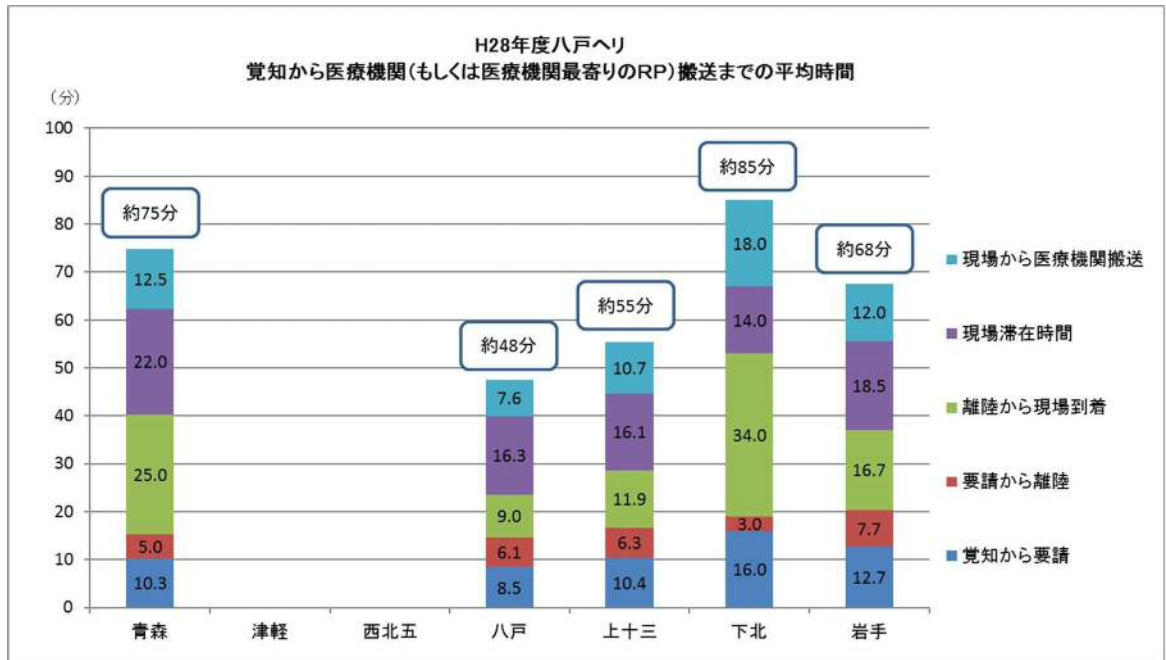
【図表2-5-1】県病への覚知から医療機関搬送までの平均時間



b 八戸への覚知から医療機関搬送までの平均時間

消防機関の覚知から医療機関搬送までの時間については、図表2-5-2のとおりである。

【図表2-5-2】八戸への覚知から医療機関搬送までの平均時間



平成29年度の施設間搬送の報告（P. 31～34）

○施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（P. 31～34）

- ・ 患者の搬送先医療機関として、県立中央病院、八戸市立市民病院及び弘前大学医学部附属病院が70%以上を占めている。その要因として、この3病院が、県内の高次・専門医療機能を担っており、特に、弘前大学医学部附属病院は県内で唯一の高度救命救急センターであり、心臓外科や循環器内科などの専門的かつ高度な医療の提供体制が充実している医療機関であるためと考えられる。
- ・ また、県病へリでは弘前大学医学部附属病院への施設間搬送の件数が平成29年度は13件で、前年度より8件増加している。その要因の一つとしては、小児の心肺停止蘇生等の特殊かつ高度な治療を要する事例が数件あったことが考えられる。
- ・ 搬送患者の症例をみると、県病へリでは「その他内因性疾患」が最も多く、その次に「心血管疾患」と「中枢神経系疾患」が続いている。八戸へリでは「中枢神経系疾患」が最も多く、その次に「心血管疾患」が続いている。その要因として、これらの症例に対応可能な医療機関が県内で限られているためと考えられる。

3 平成29年度の施設間搬送に係る運航実績の報告

(1) 県病ヘリ

a 施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

県病ヘリの施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関は、図表3-1-1のとおりである。

搬送先医療機関は青森県立中央病院が最も多く、弘前大学医学部附属病院の件数が増加している。

【図表3-1-1】施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（県病ヘリ）

H28年度_県病ヘリ
施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（単位：件）

		搬送先医療機関					合計
		青森県立中央病院	青森市民病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	むつ総合病院	
依頼元医療機関	青森県立中央病院			1	2	1	4件
	弘前大学医学部附属病院	1					1件
	健生病院	1					1件
	黒石病院	1					1件
	八戸市立市民病院	3					3件
	青森労災病院	1					1件
	八戸赤十字病院		1				1件
	つがる総合病院	1					1件
	十和田中央病院	1					1件
	公立七戸病院	1					1件
	公立野辺地病院	1					1件
	むつ総合病院	7	1	3			11件
	大間病院	3					3件
	東通診療所	2					2件
	大館市立総合病院			1			1件
その他						0件	
合計		23件	2件	5件	2件	1件	33件

H29年度_県病ヘリ
施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関（単位：件）

		搬送先医療機関				合計
		青森県立中央病院	青森市民病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	
依頼元医療機関	青森県立中央病院			6	3	9件
	外ヶ浜中央病院	3				3件
	弘前大学医学部附属病院	2				2件
	津軽保健生協健生病院		1			1件
	八戸市立市民病院	2		1		3件
	十和田市立中央病院	2				2件
	三沢市立三沢病院	1		1		2件
	むつ総合病院	11	1	5		17件
	大間病院	1				1件
合計		22件	2件	13件	3件	40件

b 施設間搬送患者の症例

県病への施設間搬送患者の症例は、図表3-1-2のとおりである。

「その他の内因性疾患」が最も多く、その次に「心血管疾患」と「中枢神経疾患」が続いている。

【図表3-1-2】施設間搬送患者の症例（県病へリ）

H28年度 県病へリ
施設間搬送患者の症例 (単位: 件)

		心血管疾患	その他の内因性疾患	消化器系疾患	中枢神経系疾患	転倒・転落事故	呼吸器系疾患	火災	不明	合計
依頼元医療機関	青森県立中央病院								4	4件
	弘前大学医学部附属病院		1							1件
	健生病院	1								1件
	黒石病院	1								1件
	八戸市立市民病院	3								3件
	青森労災病院		1							1件
	八戸赤十字病院								1	1件
	つがる総合病院							1		1件
	十和田中央病院		1							1件
	公立七戸病院				1					1件
	公立野辺地病院				1					1件
	むつ総合病院	2	3		1		2		3	11件
	大間病院	3								3件
	東通診療所			1			1			2件
	大館市立総合病院								1	1件
その他									0件	
合計		10件	6件	1件	3件	0件	3件	1件	9件	33件

H29年度 県病へリ
施設間搬送患者の症例 (単位: 件)

		心血管疾患	その他の内因性疾患	消化器系疾患	中枢神経系疾患	呼吸器系疾患	交通事故	自損行為	火災	その他の外因性疾患	その他の労災事故	合計
依頼元医療機関	青森県立中央病院		5				1	2	1			9件
	外ヶ浜中央病院	1	1	1								3件
	弘前大学医学部附属病院									1	1	2件
	津軽保健生協健生病院	1										1件
	八戸市立市民病院	1	2									3件
	十和田市立中央病院		2									2件
	三沢市立三沢病院		2									2件
	むつ総合病院	2	7	1	6	1						17件
	大間病院	1										1件
合計		6件	19件	2件	6件	1件	1件	2件	1件	1件	1件	40件

(2) 八戸へリ

a 施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

八戸へリの施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関は、図表3-2-1のとおりである。

搬送先医療機関は、八戸市立市民病院が最も多く、弘前大学医学部附属病院の件数が増加している。また、岩手県への転院搬送が散見される。

【図表3-2-1】施設間搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関

H28年度八戸へリ
転院搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関 (単位:件)

	依頼元医療機関	搬送先医療機関					合計
		青森県立中央病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	三沢市立三沢病院	岩手医科大学附属病院	
	弘前大学医学部附属病院			1			1件
	八戸市立市民病院	1	10		1	2	14件
	青森労災病院					1	1件
	五戸総合病院			1			1件
	三戸中央病院			1			1件
	公立野辺地病院	1					1件
	東通村診療所			1			1件
	大間病院			1			1件
	軽米病院			1			1件
	合計	2件	10件	6件	1件	3件	22件

H29年度八戸へリ
転院搬送の依頼元医療機関及び搬送先医療機関 (単位:件)

	依頼元医療機関	搬送先医療機関							合計
		青森県立中央病院	青森市民病院	弘前大学医学部附属病院	八戸市立市民病院	八戸赤十字病院	岩手医科大学附属病院	岩手県立中央病院	
	八戸市立市民病院	1		3			2		6件
	青森労災病院						1		1件
	五戸総合病院				3			1	4件
	三戸中央病院					1			1件
	南部医療センター				1				1件
	十和田市立中央病院		2	1	1		1		5件
	公立七戸病院			1	1				2件
	三沢市立三沢病院	1		2	1				4件
	三沢中央病院				2				2件
	六ヶ所医療センター				1				1件
	東通村診療所				3				3件
	岩手県立二戸病院				1				1件
	合計	2件	2件	7件	14件	1件	4件	1件	31件

b 施設間搬送患者の症例

八戸への施設間搬送患者の症例は、図表3-2-2のとおりである。

「中枢神経系疾患」が最も多く、その次に「心血管疾患」が続いている。

【図表3-2-2】施設間搬送患者の症例

H28年度 八戸へり
施設間搬送患者の症例 (単位:件)

		心血管系疾患	消化器系疾患	中枢神経系疾患	その他の内因性疾患	その他の外因性疾患	呼吸器系疾患	転落・転倒事故	合計
依頼元医療機関	弘前大学医学部附属病院			1					1件
	八戸市立市民病院	11			2	1			14件
	青森労災病院		1						1件
	五戸総合病院						1		1件
	三戸中央病院				1				1件
	公立野辺地病院		1						1件
	東通村診療所						1		1件
	大間病院							1	1件
	軽米病院				1				1件
合計		11件	2件	1件	4件	1件	2件	1件	22件

H29年度 八戸へり
施設間搬送患者の症例 (単位:件)

		中枢神経系疾患	心血管系疾患	消化器系疾患	呼吸器系疾患	その他の内因性疾患	交通事故	転倒・転落事故	その他の外因性疾患	合計
依頼元医療機関	八戸市立市民病院		3	1		1		1		6件
	青森労災病院			1						1件
	五戸総合病院	1	1	2						4件
	三戸中央病院	1								1件
	南部医療センター								1	1件
	十和田市立中央病院	3		1			1			5件
	三沢中央病院	1	1							2件
	三沢市立三沢病院		1	1	1	1				4件
	公立七戸病院		1			1				2件
	六ヶ所医療センター	1								1件
	東通村診療所	2			1					3件
	岩手県立二戸病院		1							1件
合計		9件	8件	6件	2件	3件	1件	1件		31件

2 機体制効果の報告（P. 36）

○ 2 機体制の効果（P. 36）

- ・ 本県は、平成24年10月から県立中央病院及び八戸市立市民病院を基地病院とした2機体制での運用を開始し、1機体制では対応できなかった事案にも対応できるようになった。
- ・ 「2機体制による効果」として捉えられる事案は、次の場合となる。
 - (1) 一方のドクターヘリが他事案対応中に、新たな要請事案があり、もう一方が対応した場合
 - (2) 一方のドクターヘリが天候不良で対応できない場合で、もう一方が対応した場合
 - (3) 一方のドクターヘリが(1)、(2)以外の何らかの理由で対応できなかった場合で、もう一方が対応した場合
- ・ 「2機体制による効果」として捉えられる事案で最も多いのは、(1)の「一方のドクターヘリが他事案対応中に、新たな要請事案があり、もう一方が対応した場合」で、全体の90%以上を占めている。
- ・ 平成29年度は138件で、前年度より12件増加し過去最多となっており、2機体制の効果が引き続き十分発揮されていると考えられる。また、出動件数自体が安定していることを踏まえると、100件前後で推移していくものと考えられる。

4 2機体制の効果の報告

本県では、平成24年10月から県病及び八戸市立市民病院の2機体制とした。

2機体制の効果を定量的に測る指標として、図表4-1及び4-2のとおり『1機体制では対応できなかった事案』が挙げられる。

これは、2機同時に出動していた事案及び第1病院が出動中のため、第2病院が対応した事案のほか、第1病院が天候不良のため、第2病院が対応した事案であり、1機体制では不出動とされた事案である。

平成29年度は138件で、前年度より12件増加し過去最多となっている。

【図表4-1-1】2機体制による効果

(単位：件)

